

# 産業カウンセリング

号 外

創立50周年記念

産業カウンセラー等の実態調査

概要報告書

(単純集計結果)

2009年12月

社団法人 日本産業カウンセラー協会  
産業カウンセリング研究所  
(産業カウンセラー等の実態調査委員会)



# はじめに

社団法人日本産業カウンセラー協会は、2010年11月に創立50周年を迎えますが、会員をはじめ皆様方のご尽力とご協力のおかげで、2009年10月には、産業カウンセラー等の協会認定資格取得者は延べ4万人に迫り、会員は2万人に達しました。

昨年は世界中が100年に1度といわれる金融危機に見舞われ、わが国の雇用・労働環境も厳しい状況に陥りました。失業率は7月に5.7%と過去最悪を記録し、自殺者は半年で、すでに1万7千人にのぼり、このまま推移すると12年連続で3万人を超えると予測されています。また、8月の総選挙の結果で政権交代があり、新政府は、経済・雇用危機の克服と安定した経済成長を標榜し、雇用対策に取り組み緊急雇用対策本部を立ち上げ、職を失い生活に困窮している方々の支援、新卒・未就職の方々への対応など、雇用創造への取り組みが謳われています。

このような産業社会・労働環境の変化のもとで、産業カウンセリングの3つの活動領域（メンタルヘルス対策への援助、キャリア開発への援助、職場における人間関係開発への援助）での私たちに対する社会からの要請はさらに増すものと思われ、協会として今後産業カウンセリングの啓発、普及に一層力を入れていかなければなりません。

それには「産業カウンセラー」「シニア産業カウンセラー」「キャリア・コンサルタント」（これまでの資格名も含み、以下「産業カウンセラー等」とします）の資格取得者およびこれから資格を取ろうとお考えの会員の方々が、現在どのような状況におられ、どのような活動をなさり、どのような問題に直面されているかという実態と意識についての正確なデータを収集し、産業カウンセラー等の資質の維持・向上の支援策（養成、指導者育成も含め）を考え、早急に具体化する必要があります。

そこで、本年6月から7月にかけて会員および会員以外の資格取得者をも対象とした大規模な調査を行ないました。

本概要報告書は、その単純集計の結果について特徴的な事実を主体にご報告するものです。

皆様が、今後の産業カウンセリング活動等をお考えになる際にお役に立てていただければ幸いです。（そのため、本報告書は調査用紙をお送りした方々全員に送付させていただいております。）

末筆ながら、調査にご協力いただいた皆様には心から御礼申し上げますとともに、全会員および資格取得者の皆様には今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

2009年12月

社団法人 日本産業カウンセラー協会  
産業カウンセリング研究所  
(産業カウンセラー等の実態調査委員会)



# 目次

はじめに

調査の概要と報告書の見方

## I 回答者は？

1. 性別・年齢・居住地は…………… 1
2. 就労形態・勤務先の業種・勤務先での職種・勤務先の従業員数は…………… 2
3. 勤務先の産業カウンセリング等の活動への関心度は…………… 4

## II 取得している資格は？

4. 取得しているカウンセリング関連資格は…………… 5
5. 協会認定の3資格の取得時の動機は…………… 5
6. 協会認定の3資格の取得後の状況や気持などの変化は…………… 6
7. 協会認定の3資格の取得後の年数は…………… 7
8. 協会認定の2資格の受験資格は…………… 8
9. 今後取得したいカウンセリング関連資格は…………… 9
10. 協会発行の「資格登録証」の有無は…………… 9
11. 資格登録していない理由は…………… 10

## III 資格の活用は？

12. 「資格」取得を周囲に公表している程度は…………… 11
13. 「資格」を公表していない理由は…………… 11
14. 「資格」取得により培ったスキルの活用の程度は…………… 12
15. 「資格」取得により培ったスキルを活用していない理由は…………… 12

## IV 資格を活かした活動は？

16. 「活動」を行なっている場所は…………… 13
17. 「活動」の形態は…………… 14
18. 「活動」の内容は…………… 14
19. 「活動」で得る報酬は…………… 15
20. 「活動」の1ヶ月平均日数は…………… 15

## V 今後の活動は？

21. 産業カウンセラー等として身につけたい特性は…………… 16
22. 現在のスキルを維持・向上するための活動は…………… 17
23. 「活動」に対する協会の役割（支援）についての意見は…………… 18
24. 「活動」に対して協会が行なうべき「支援」の内容は…………… 18

おわりに

資料（数表）



## ●調査の概要

### 1. 調査名称

「産業カウンセラー等の実態調査」

### 2. 調査目的

協会設立50周年を期し、産業カウンセラー、シニア産業カウンセラーおよびキャリア・コンサルタントの資格取得者および協会会員がどのような実状にあるかを把握し、今後の協会のあり方、資格付与のあり方、資格取得者のサポートのあり方などに資することを目的とする。

### 3. 調査対象者

(1)調査用紙送付対象者：36,639人（内、17,499人は会員登録をしていない資格取得者）  
（会員は、6月初旬までに会員登録をした方に送付）

(2)有効回答者数： 14,776人

(3)有効回答者率： 43.4%

（ただし、(1)から宛先不在者、物故者等を除いた34,063人を分母とした）

### 4. 調査期間

・2009年6月15日～同年7月31日

### 5. 調査方法

(1)質問紙調査法（調査用紙、回答用紙分離方式）

(2)郵送法（調査用紙および回答用紙の発送、回収）

(3)無記名調査法

(4)回答返送促進法

・調査協力へのインセンティブ

（調査報告書、特別講演会、協会発行書籍等6種、会員には資格更新ポイント2ポイント）

・礼状兼督促状の発送（7月上旬）

### 6. 調査内容

質問1 取得しているカウンセリング関連資格（選択肢数：13/MA）

質問2 協会認定3資格取得後の年数（選択肢数：7/SA）

質問3 協会認定3資格取得後の状況や気持などの変化（選択肢数：16/3MA）

質問4 協会認定3資格取得の動機（選択肢数：16/3MA）

質問5 協会認定2資格の受験資格（選択肢数：3/SA）

質問6 今後取得したいカウンセリング関連資格（選択肢数：13/MA）

質問7 「資格」取得を周囲に公表している程度（選択肢数：3/SA）

質問8 「資格」を公表していない理由（選択肢数：14/3MA）

質問9 「資格」取得により培ったスキルの活用程度（選択肢数：3/SA）

質問10 「資格」取得により培ったスキルを活用していない理由（選択肢数：13/3MA）

質問11 「活動」を行っている場所（選択肢数：16/3MA）

質問12 「活動」の形態（選択肢数：7/2MA）

質問13 「活動」の内容（選択肢数：20/5MA）



- 質問14 「活動」で得る報酬（2008年の年間総額（税込み））（選択肢数：12／SA）  
質問15 「活動」の1ヶ月平均日数（選択肢数：6／SA）  
質問16 産業カウンセラー等として身につけたい特性（選択肢数：9／3MA）  
質問17 現在のスキルを維持・向上するための活動（選択肢数：16／3MA）  
質問18 「活動」に対する協会の役割（支援）についての意見（選択肢数：3／SA）  
質問19 「活動」に対して協会が行なうべき「支援」の内容（選択肢数：11／3MA）  
質問20 性別（選択肢数：2／SA）  
質問21 年齢（実年齢記入）  
質問22 居住地（選択肢数：47／SA）  
質問23 就労形態（選択肢数：12／SA）  
質問24 (1)勤務先の業種（選択肢数：17／SA）  
質問24 (2)勤務先の従業員数（選択肢数：7／SA）  
質問24 (3)勤務先の産業カウンセリング等の活動への関心度（選択肢数：5／SA）  
質問24 (4)勤務先での職種（選択肢数：25／SA）  
質問25 協会発行の「資格登録証」の有無（選択肢数：3／SA）  
質問26 資格登録していない理由（選択肢数：8／2MA）

★ただし、各質問の（選択肢数：）の最後のSAは「選択肢の内、1個を選択」、MAは「選択肢の内、複数個を選択」であり、頭の数字はその個数を表す。

## ●報告書の見方

- (1) 本報告書は、結果報告の第一弾として単純集計の結果の数値のみを解釈なしで記述しています。
- (2) 回答者は、全対象者の内の一部であり、しかも「協力しよう」という意志のある方々ですので、本報告書の数値から全資格取得者について断定的な解釈をすることはできません。
- (3) 結果の数値は、回答者の様々な属性（目次の1～4、10など）が背景に重なり合っていますので、そのことを勘案しながらご覧ください。
- (4) 報告書の構成は、内容によって再構成していますので、必ずしも質問項目の順番にはなっていません。
- (5) 本文中、「産業カウンセラー等」とあるのは、協会認定の3資格「産業カウンセラー」「シニア産業カウンセラー」「キャリア・コンサルタント」を指します。
- (6) 図のグラフに記されている選択肢の文言は、質問用紙のものを要約したものです。本来の文言は巻末の「資料（数表）」をご覧ください。
- (7) 図のグラフは%表示になっています。実際的人数（n）は巻末の「資料（数表）」の「回答数」をご覧ください。

以上

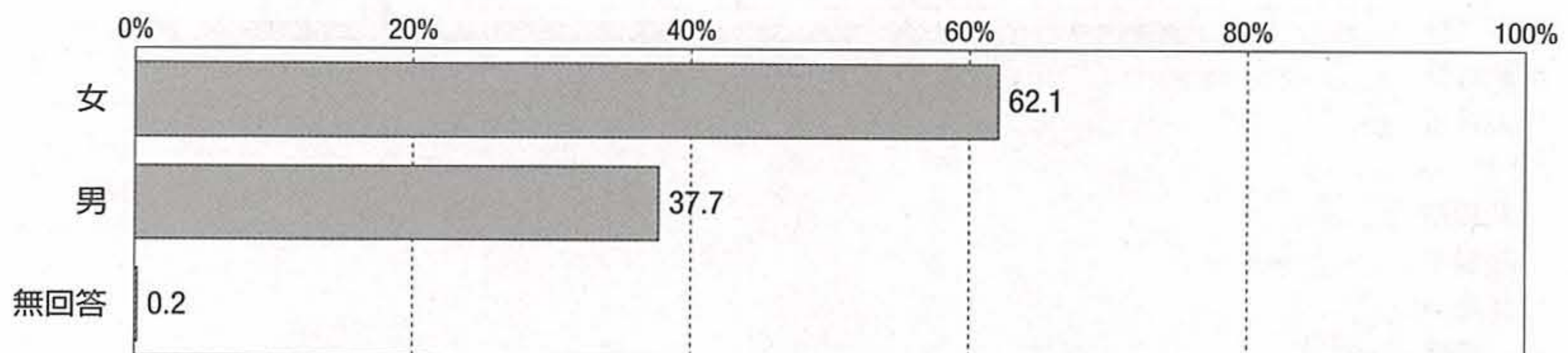


## ① 性別・年齢・居住地は…

### (1) 性別（質問20：1つ選択）：回答者の62%は女性

回答者の性別では、女性が62.1%を占める。ちなみに、本調査では会員だけでなく資格取得者にも調査対象を広げたが、2000年および2006年に実施した会員調査でも、男女比は2：3であった。（図1）

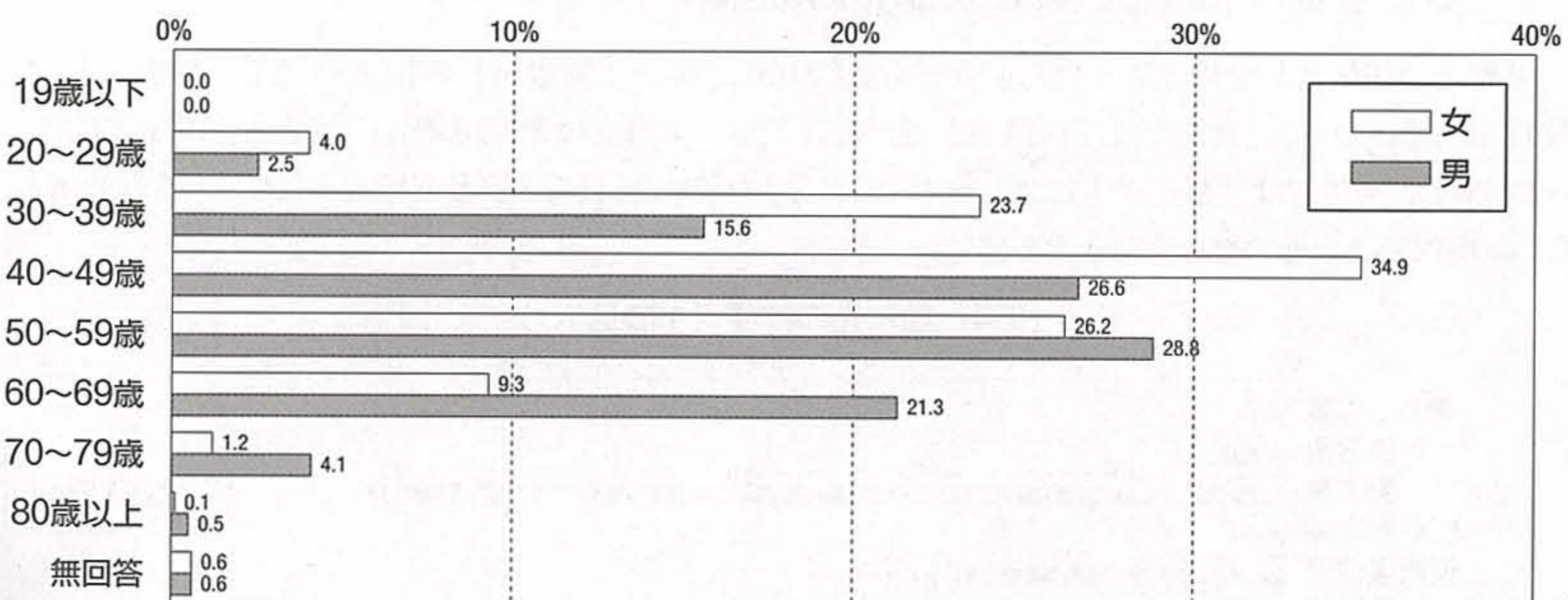
【図1 性別（1つ選択）】



### (2) 年齢（質問21：実年齢記入）：平均年齢は、48.1歳

平均年齢は、全体では48.1歳（標準偏差10.96）である。10歳きざみの年代で一番多い年齢層は、「40歳から49歳」の層で31.7%を占めている。性別で見ると女性では40歳代、50歳代、30歳代の順であるが、男性では50歳代、40歳代、60歳代と、やや年齢は高く、男女間に差が見られる。（図2）

【図2 年齢（実年齢記入）】



### (3) 居住地【県別】（質問22：1つ選択）：東京、神奈川、千葉、埼玉で全体の42%

居住地は、全体では首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）が41.6%を占め、以下、中部、関西地域の順が多い。性別では、首都圏以外では大きな違いは見られない。（図は省略。詳細は巻末の資料（数表）を参照）



## ② 就労形態・勤務先の業種・勤務先での職種・勤務先の従業員数は…

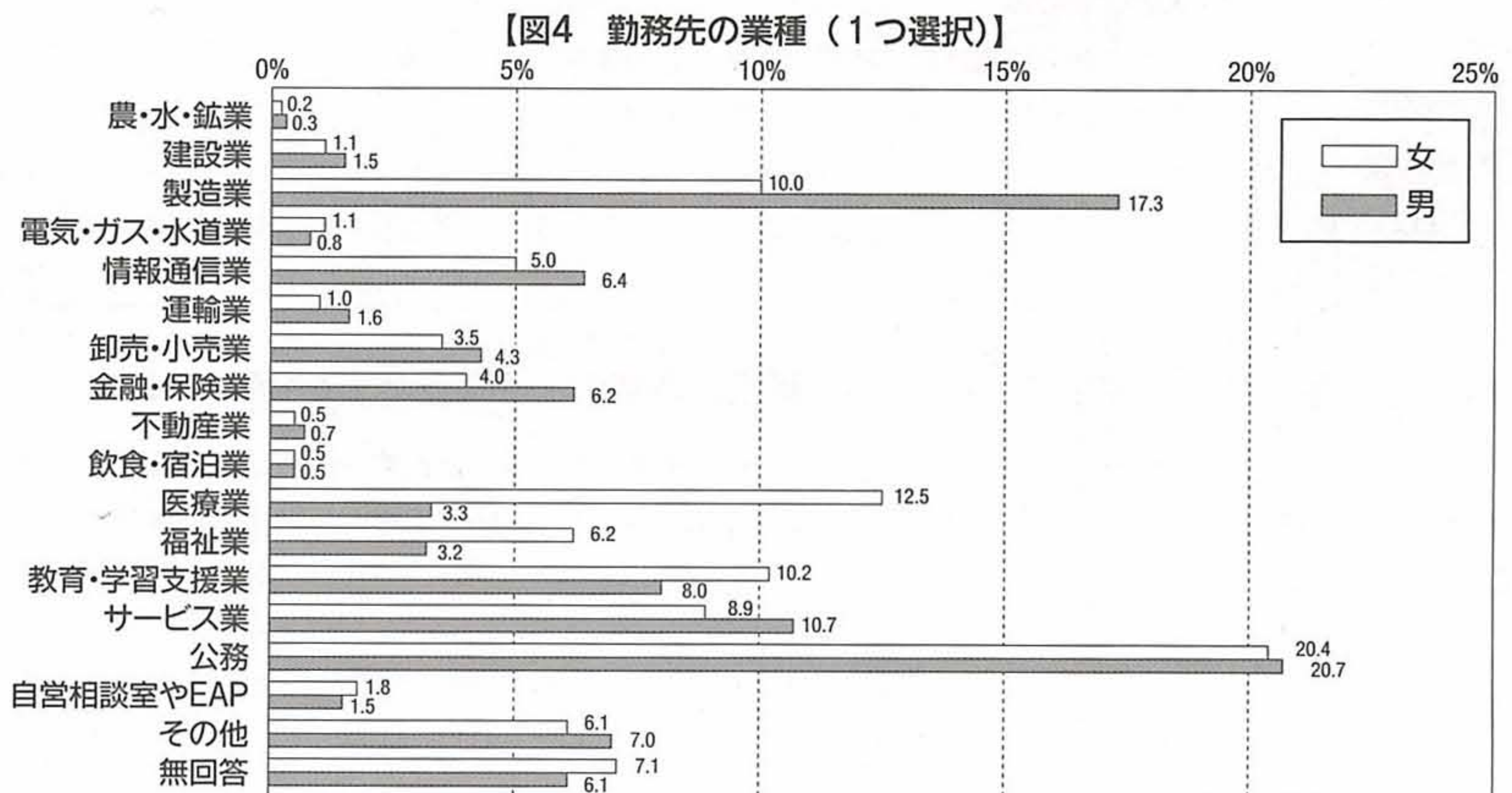
### (1) 就労形態 (質問23: 1つ選択): 常用雇用者が50%

就労形態は、全体では「正社員 (常用雇用者)」が49.6%と半数を占め、次に多いのは「契約社員」の12.3%である。性別で見ると、女性は「正社員」43.7%、次いで「契約社員」13.1%、「パートアルバイト」8.9%、「主婦」7.9%の順で多いが、男性では「正社員」59.0%、「契約社員」10.8%、「経営者 (自営業主)」9.0%、「定年退職者」5.9%の順で多くなっており、3位以下で違いが出ている。(図3)



### (2) 勤務先の業種 (質問24(1): 1つ選択): 公務、製造業、医療業が多い (現在、企業や団体などで働いている方のみの回答)

勤務先の業種は、全体では「公務」が最も多く20.6%、次が「製造業」の12.9%である。性別で見ると2位以下で違いがあり、女性では「医療業」12.5%、「教育・学習支援業」10.2%、「製造業」10.0%の順であるのに対し、男性では「製造業」17.3%、「サービス業」10.7%、「教育・学習支援業」8.0%、「情報通信業」6.4%の順である (その他を除く)。(図4)

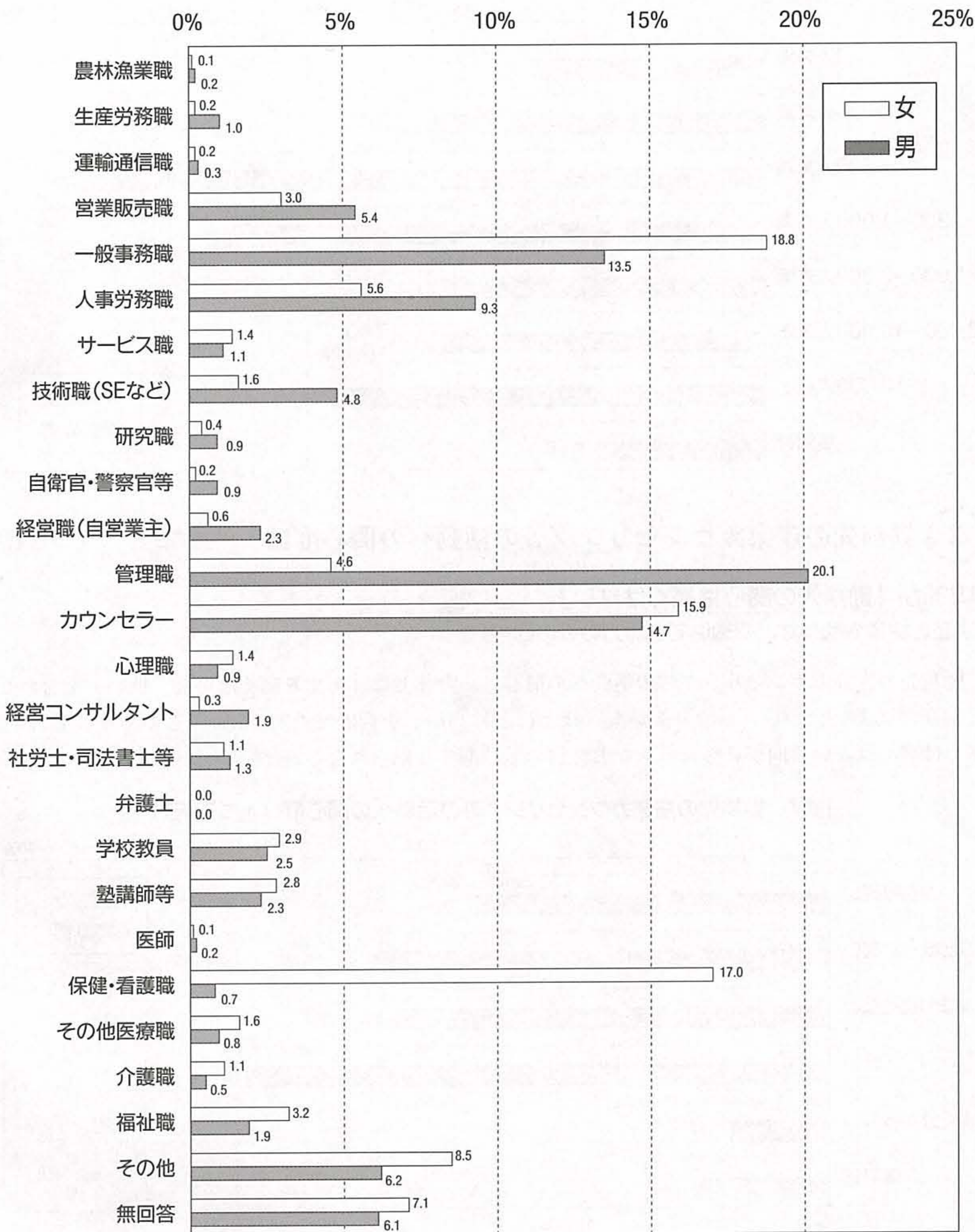




(3) 勤務先での職種（質問24(4)：1つ選択）：カウンセラーは全体の16%  
 （現在、企業や団体などで働いている方のみの回答）

勤務先での職種は、全体では「一般事務職」の占める割合が高く16.9%を占め、次いで「カウンセラー」が15.6%となっている。しかし性別で見ると、女性では「一般事務職」18.8%に次いで、「保健・看護職」17.0%、「カウンセラー」15.9%、「人事労務職」5.6%、「管理職」4.6%の順であるのに対し、男性では、「管理職」が一番多く20.1%を占め、次いで「カウンセラー」14.7%、「一般事務職」13.5%、「人事労務職」9.3%となっており、かなり違いがある。（図5）

【図5 勤務先での職種（1つ選択）】

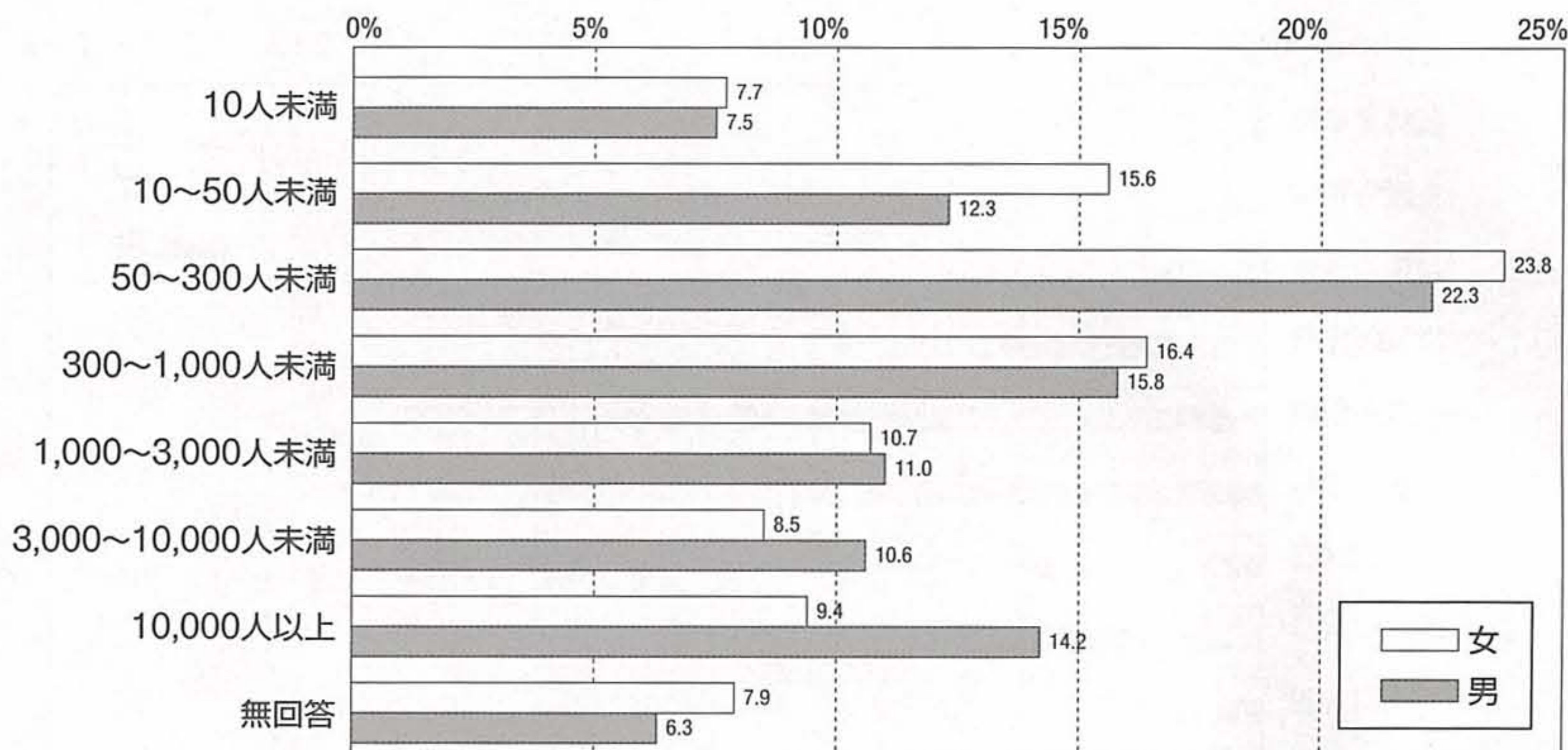




(4) 勤務先の従業員数 (質問24(2): 1つ選択): **最も多いのは50人以上、300人未満**  
(現在、企業や団体などで働いている方のみの回答)

勤務先での従業員数は、全体では「50人以上、300人未満」の規模の組織に勤務する人が最も多く、23.2%を占める。次いで「300人以上、1,000人未満」が16.2%である。しかし性別で見ると3位以下で違いがあり、女性では「10人以上、50人未満」が15.6%、「1,000人以上、3,000人未満」の順であるが、男性では「10,000人以上」が14.2%、「10人以上、50人未満」が12.3%であり、さらに1,000人以上の規模では、男性の占める割合が高くなっている。(図6)

【図6 勤務先の従業員数 (1つ選択)】



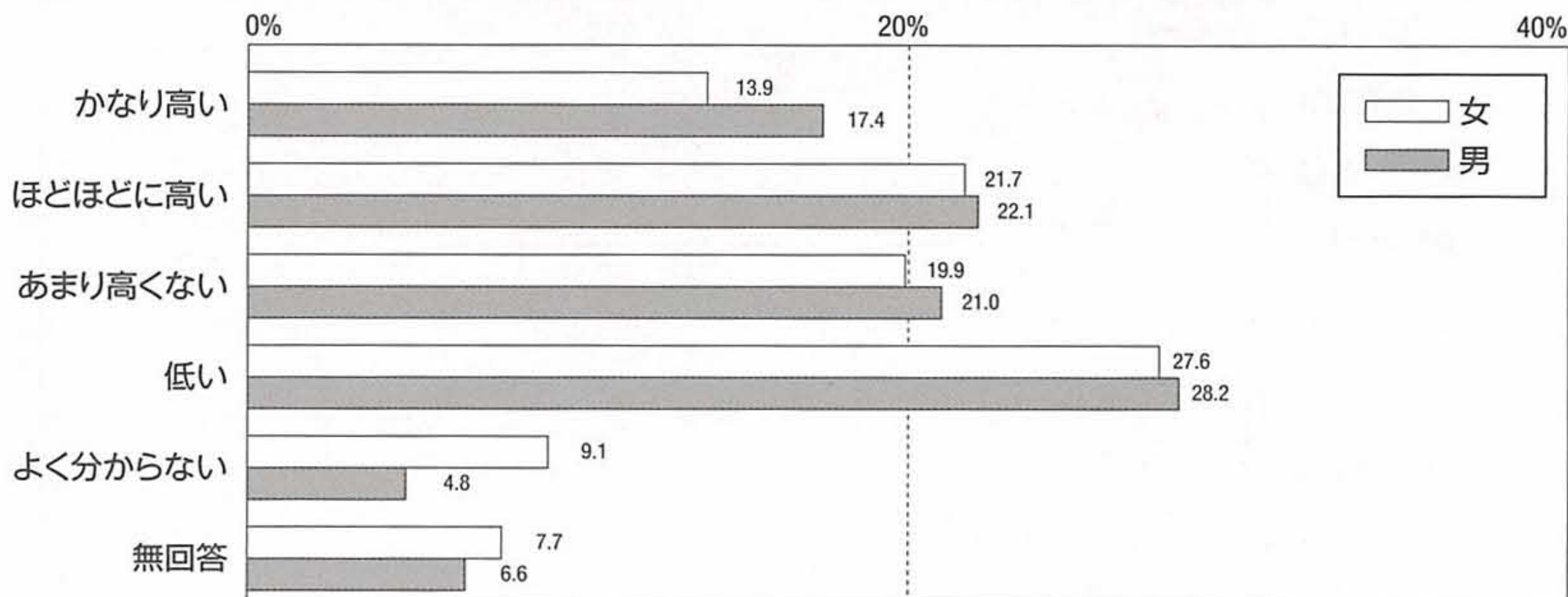
③ 勤務先の産業カウンセリング等の活動への関心度は… (質問24(3): 1つ選択)

**48%が「勤務先の関心は高くはない」**

(現在、企業や団体などで働いている方のみの回答)

勤務先の産業カウンセリング等の活動への関心は、全体では「あまり高くない」、「低い」を合わせた割合が48.2%となり、「かなり高い」、「ほどほどに高い」を合わせた37.1%よりも多くなっており、関心は高くはない傾向が見られる。なお性別の差はあまり見られない。(図7)

【図7 勤務先の産業カウンセリング等の活動への関心度 (1つ選択)】





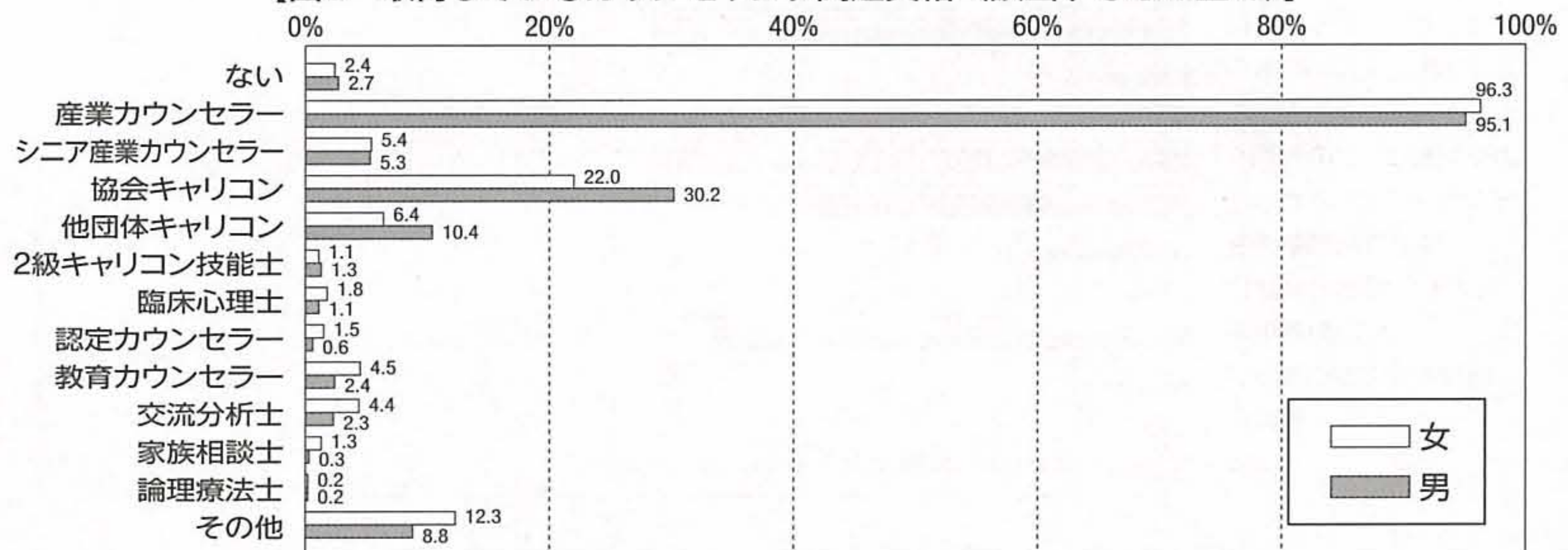
#### ④ 取得しているカウンセリング関連資格は… (質問1：該当するもの全て選択)

##### 産業カウンセラー資格のみは70%、シニア資格は5%

協会認定の3つの資格では、全体では「産業カウンセラー」が95.9%、「シニア産業カウンセラー」が5.4%、「キャリア・コンサルタント」が25.1%である。ただし、複数回答であるので「産業カウンセラー」資格取得者の中には他の2資格を取得している人も含まれており、「産業カウンセラー」資格のみの人を集計すると69.5%になる。

協会認定以外のカウンセリング関連資格では、他団体認定の「キャリア・コンサルタント」が7.9%と多く、「臨床心理士」は1.5%である。なお性別の違いはほとんど見られない。(図8)

【図8 取得しているカウンセリング関連資格 (該当するもの全て)】



#### ⑤ 協会認定の3資格の取得時の動機は… (質問4：3つまで選択)

##### (1) 産業カウンセラー資格の場合：最も多いのは、カウンセリングを勉強したかったから

産業カウンセラー資格取得時の動機で最も多かったのは、「心理学やカウンセリングの勉強をしたかった」で46.3%、以下「心の問題を抱えた人を広く援助したかったから」37.0%、「カウンセリングに関わる仕事に就きたかったから」26.6%、「勤務先での自分の職域を広げたかった」25.9%が続く。とくに前2者は、他の2資格より多くなっている。(図9)

##### (2) シニア産業カウンセラー資格の場合：最も多いのは、レベルアップしたかったから

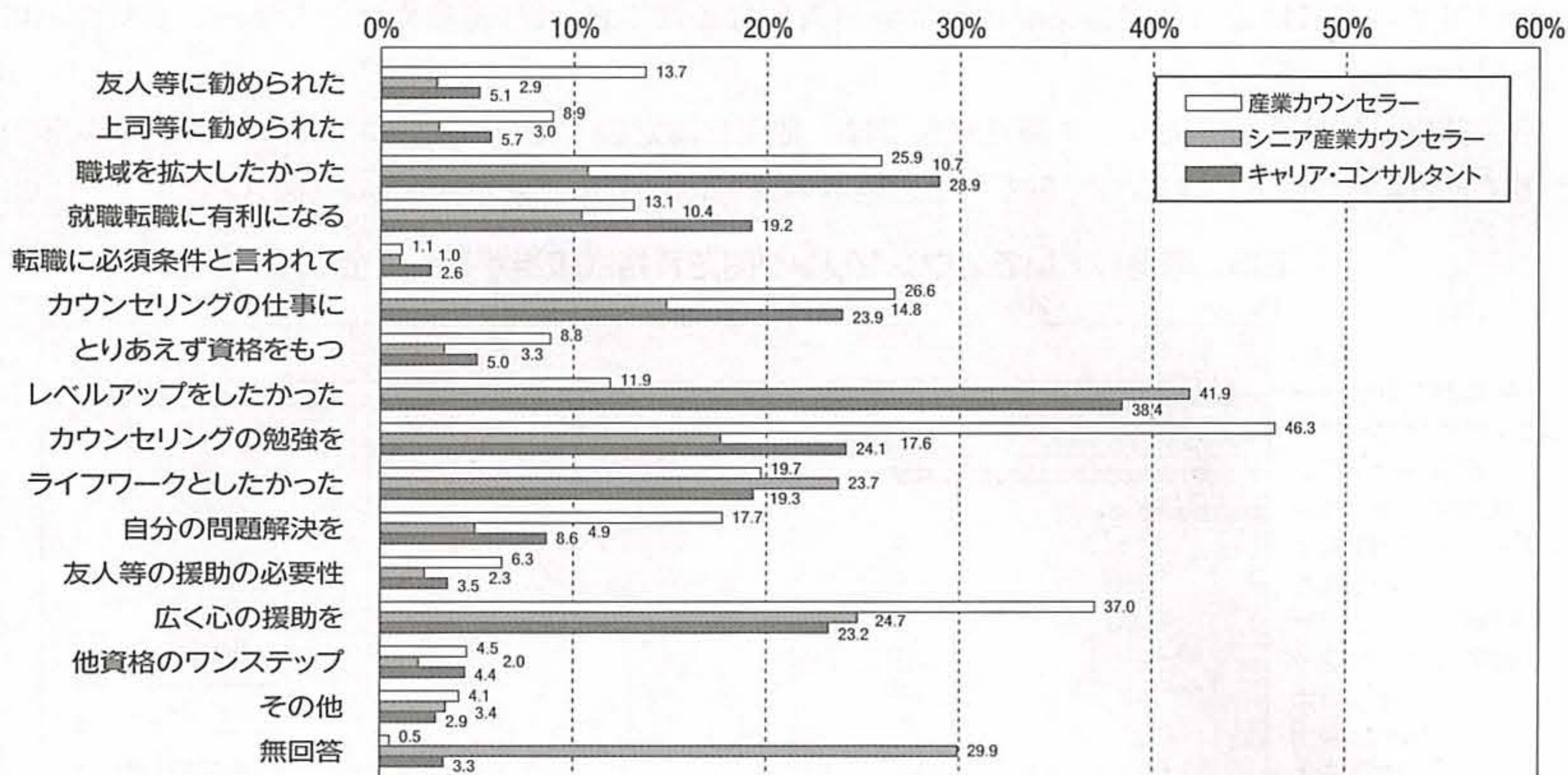
シニア産業カウンセラー資格取得時の動機で最も多かったのは、「カウンセラーとしてレベルアップしたかったから」で41.9%、以下「心の問題を抱えた人を広く援助したかったから」24.7%、「自分の生きがい、ライフワークとしたかったから」23.7%など、やや抽象的で理念的な動機が上位を占めている。他方、「自分の職域を広げたかったから」(10.7%)や「就・転職に有利になると思ったから」(10.4%)「カウンセリングに関わる仕事に就きたかったから」(14.8%)といった具体的で実利的な動機の割合は相対的に低い。また、他の2資格より多くなっているのは、「カウンセラーとしてレベルアップしたかったから」と「自分の生きがい、ライフワークとしたかったから」である。なお、「無回答」が29.9%に上った点も特徴的である。(図9)



(3) **キャリア・コンサルタント資格の場合：最も多いのは、レベルアップしたかったから**

キャリア・コンサルタント資格取得時の動機で最も多かったのは、「カウンセラーとしてレベルアップしたかったから」で38.4%、次に「勤務先での自分の職域を広げたかったから」が28.9%を占める。さらに「心理学やカウンセリングの勉強をしたかった」24.1%、「カウンセリングに関わる仕事に就きたかったから」23.9%、「心の問題を抱えた人を広く援助したかったから」23.2%など、やや抽象的な動機が同程度の比率で続く。また、他の2資格より多くなっているのは、「勤務先での自分の職域を広げたかったから」と「就・転職の際に有利になると思った」19.2%である。(図9)

【図9 協会認定の3資格の取得時の動機（3つまで選択）】



6 協会認定の3資格の取得後の状況や気持などの変化は…(質問3:3つまで選択)

(1) **産業カウンセラー資格の場合：最も多いのは、日常で言動に注意**

産業カウンセラー資格取得後の状況や気持の変化で最も多かったのは、「日常の人づき合いで自分や他者の言動に注意するようになった」48.3%で、他2資格に比べてかなり多いことが目立つ。以下「自分自身に自信がつき、ゆとりができた」31.6%、「他の資格取得ステップへ進む励みになった」24.1%、「名刺や履歴書に書ける資格が増えてよかった」21.7%と続く。なお、「とくになかった」という人が11.2%いる。(図10)

(2) **シニア産業カウンセラー資格の場合：最も多いのは、自分に自信とゆとり**

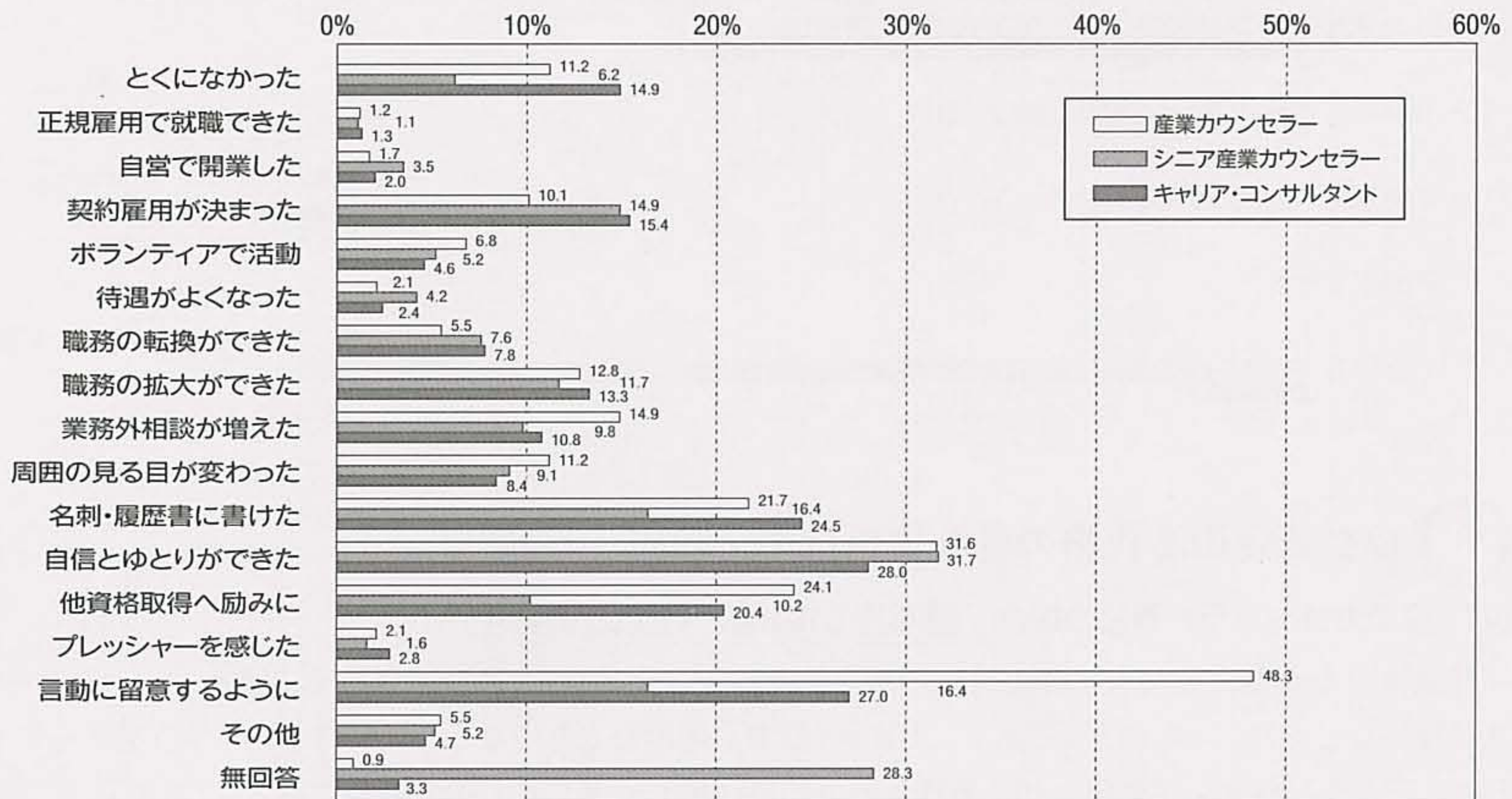
シニア産業カウンセラー資格取得後の状況や気持の変化で最も多かったのは、「自分自身に自信がつき、ゆとりができた」31.7%であり、以下「日常の人づき合いで自分や他者の言動に注意するようになった」と「名刺や履歴書に書ける資格が増えてよかった」が同率の16.4%、「契約雇用が決まった」14.9%と続く。なお、「無回答」が28.3%にのぼり、他の選択肢の比率が相対的に低くなっている。(図10)



(3) キャリア・コンサルタント資格の場合：最も多いのは、自分に自信とゆとり

キャリア・コンサルタント資格取得後の状況や気持ちの変化で最も多かったのは、「自分自身に自信がつき、ゆとりができた」28.0%であり、以下「日常の人づき合いで自分や他者の言動に注意するようになった」27.0%、「名刺や履歴書に書ける資格が増えてよかった」24.5%、「他の資格取得ステップへ進む励みになった」20.4%と続き、比率的には異なるが順位的にはシニア産業カウンセラーの場合と同じである。なお、「とくになかった」という人が14.9%いる。(図10)

【図10 協会認定の3資格の取得後の状況や気持ちなどの変化（3つまで選択）】



7 協会認定の3資格の取得後の年数は… (質問2：1つ選択)

(1) 産業カウンセラー資格の場合：最も多いのは、「1年以上、3年未満」

産業カウンセラー資格取得後の年数で最も多かったのは、「1年以上、3年未満」の26.5%であり、以下「5年以上、10年未満」23.2%、「3年以上、5年未満」19.2%、「1年未満」17.0%と続く。(図11)

(2) シニア産業カウンセラー資格の場合：最も多いのは、「5年以上、10年未満」

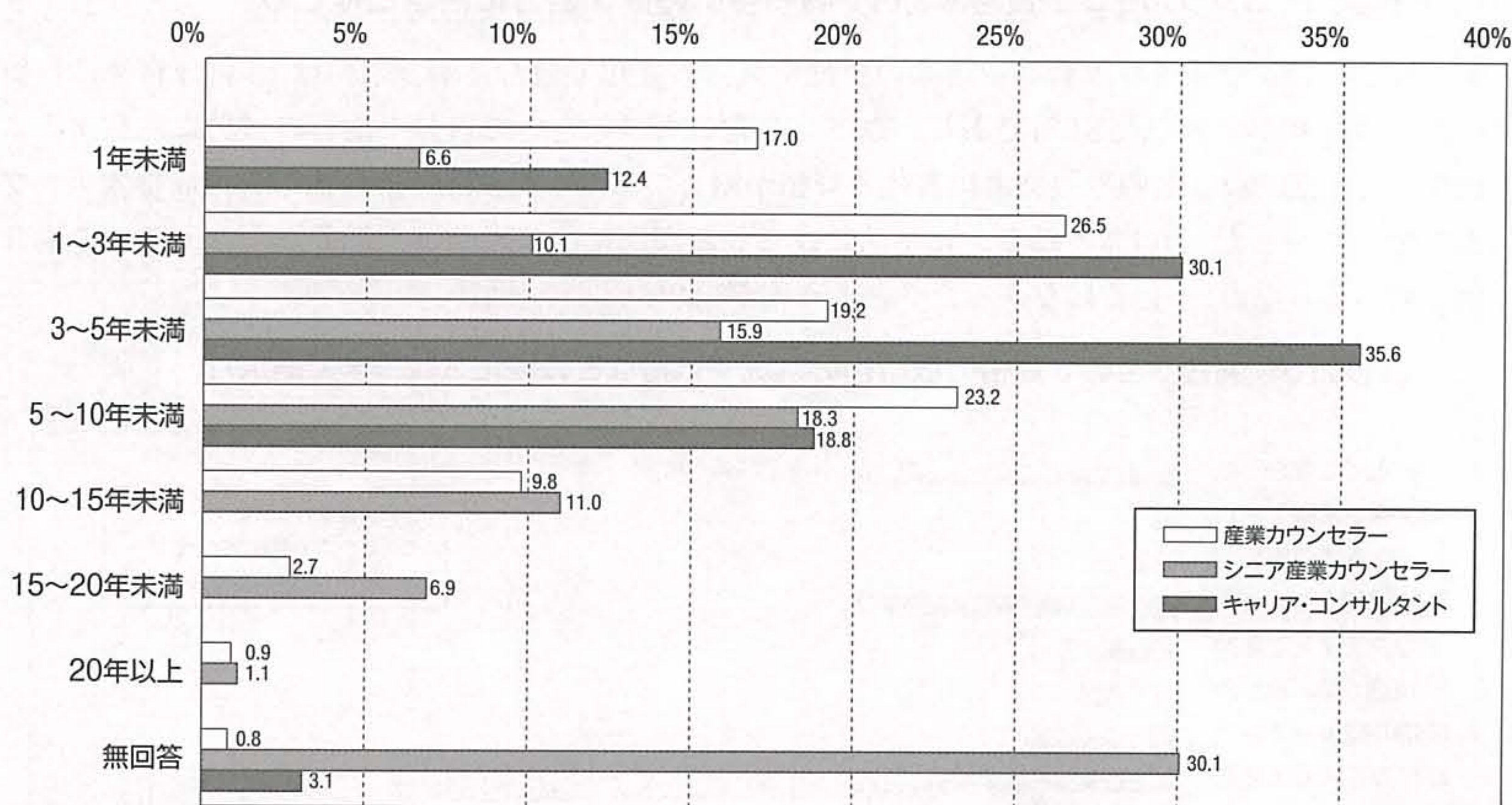
シニア産業カウンセラー資格取得後の年数で最も多かったのは、「5年以上、10年未満」の18.3%であり、以下「3年以上、5年未満」15.9%、「10年以上、15年未満」11.0%と続く。なお、「無回答」が30.1%にのぼり、他の選択肢の比率が相対的に低くなっている。(図11)

(3) キャリア・コンサルタント資格の場合：最も多いのは、「3年以上、5年未満」

キャリア・コンサルタント資格取得後の年数で最も多かったのは、「3年以上、5年未満」の35.6%であり、以下「1年以上、3年未満」30.1%、「5年以上、10年未満」18.8%と続く。なお、この結果は、キャリア・コンサルタント資格が2003年に設定されたものであることを考慮する必要がある。(図11)



【図11 協会認定の3資格の取得後の年数（1つ選択）】



## 8 協会認定の2資格の受験資格は…（質問5：1つ選択）

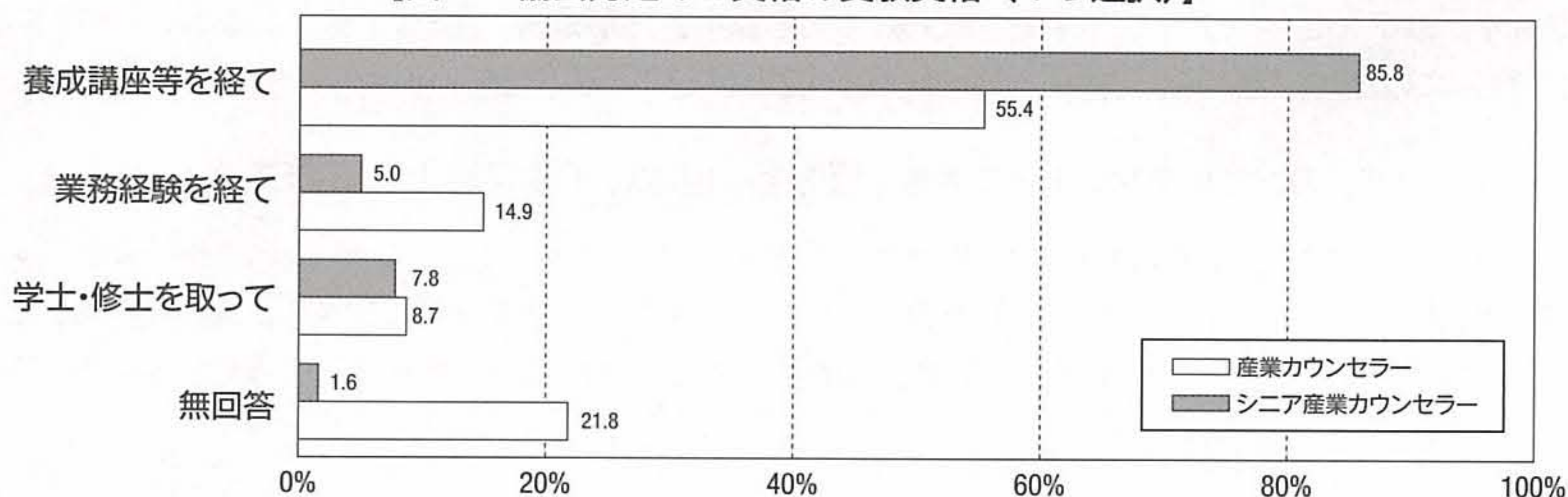
### (1) 産業カウンセラー資格の場合：最も多いのは、「養成講座等」

産業カウンセラー資格取得時の受験資格で最も多かったのは、「協会主催の養成講座（シニアコース講座）などを経て」の85.8%であり、以下「大学で心理学などを専攻し学士（修士）の学位をとって」7.8%、「カウンセリング業務などに通算4年（10年）以上従事して」5.0%の順である。（図12）

### (2) シニア産業カウンセラー資格の場合：最も多いのは、「シニア講座等」

シニア産業カウンセラー資格取得時の受験資格で最も多かったのは、「協会主催の養成講座（シニアコース講座）などを経て」の55.4%であり、以下「カウンセリング業務などに通算4年（10年）以上従事して」14.9%、「大学で心理学などを専攻し学士（修士）の学位をとって」8.7%の順である。シニア産業カウンセラーの場合、産業カウンセラーに比べて「カウンセリング業務などに通算4年（10年）以上従事して」が多い。なお、「無回答」が21.8%にのぼり、他の選択肢の比率が相対的に低くなっている。（図12）

【図12 協会認定の2資格の受験資格（1つ選択）】





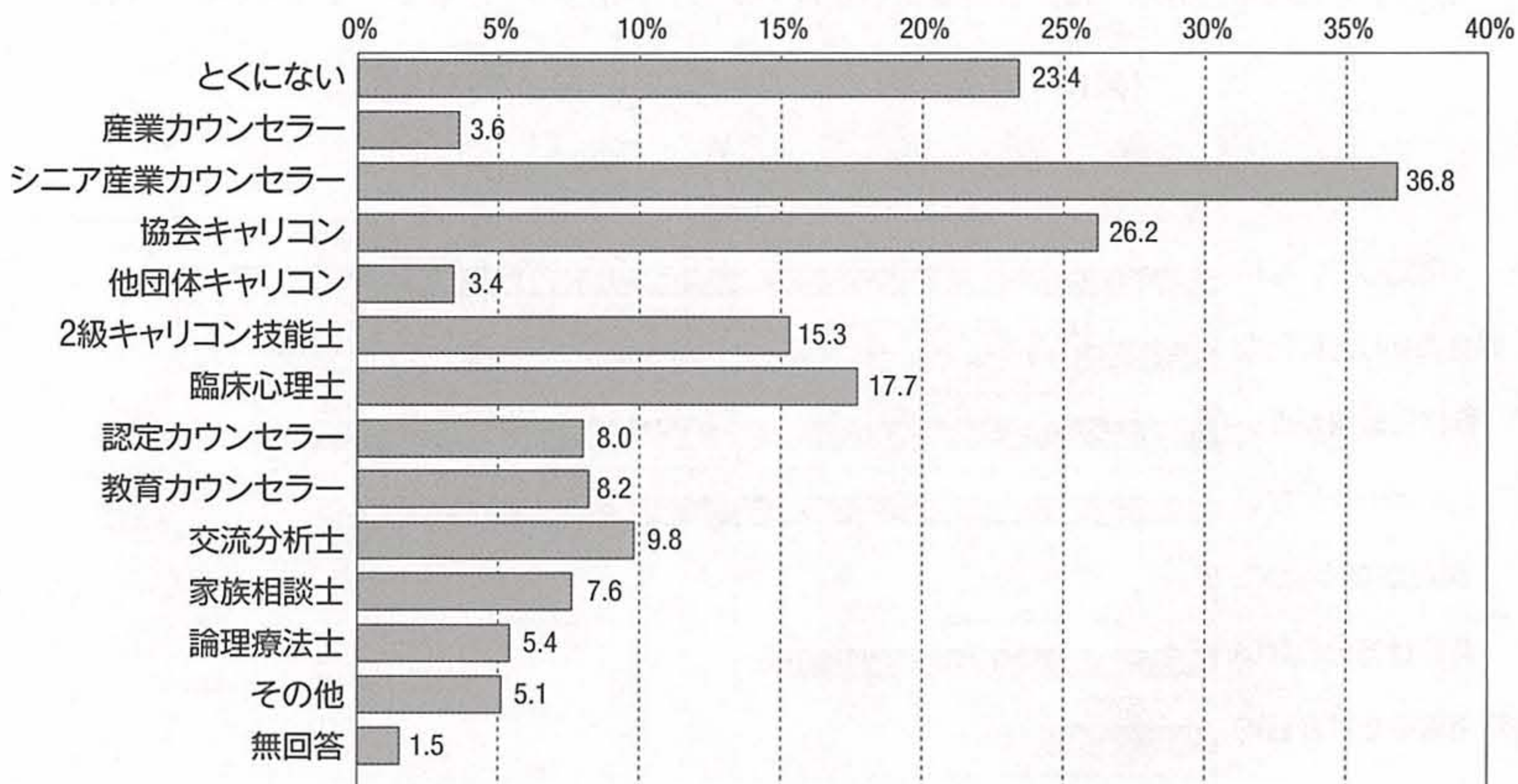
9 今後取得したいカウンセリング関連資格は… (質問6：該当するもの全て選択)

シニア産業カウンセラー37%、協会認定キャリアコンサルタント26%

協会認定の3つの資格では、4. の現在取得している資格の関係で「シニア産業カウンセラー」が最も多く36.8%、次が「キャリア・コンサルタント」が26.2%である。

協会認定以外のカウンセリング関連資格では、「臨床心理士」が最も多く17.7%、次が「2級キャリア・コンサルティング技能士」で15.3%である。なお、「とくにない」とする人が23.4%いることも特徴的である。(図13)

【図13 今後取得したいカウンセリング関連資格 (該当するもの全て)】

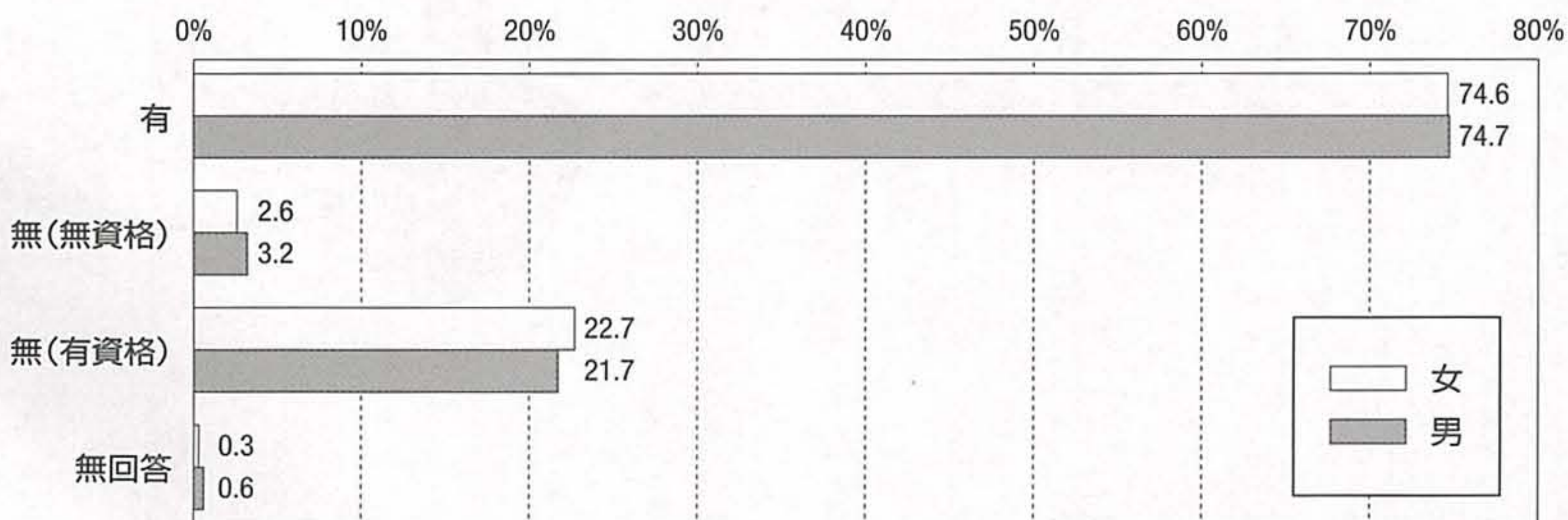


10 協会発行の「資格登録証」の有無は… (質問25：1つ選択)

資格登録者は75%、未登録者は22%

今回の調査では、資格登録者が74.6%を占め、資格取得者で未登録者が22.4%である。性別による資格登録の割合に、違いは見られない。(図14)

【図14 協会発行の「資格登録証」の有無 (1つ選択)】





## 11 資格登録していない理由は… (質問26：2つまで選択)

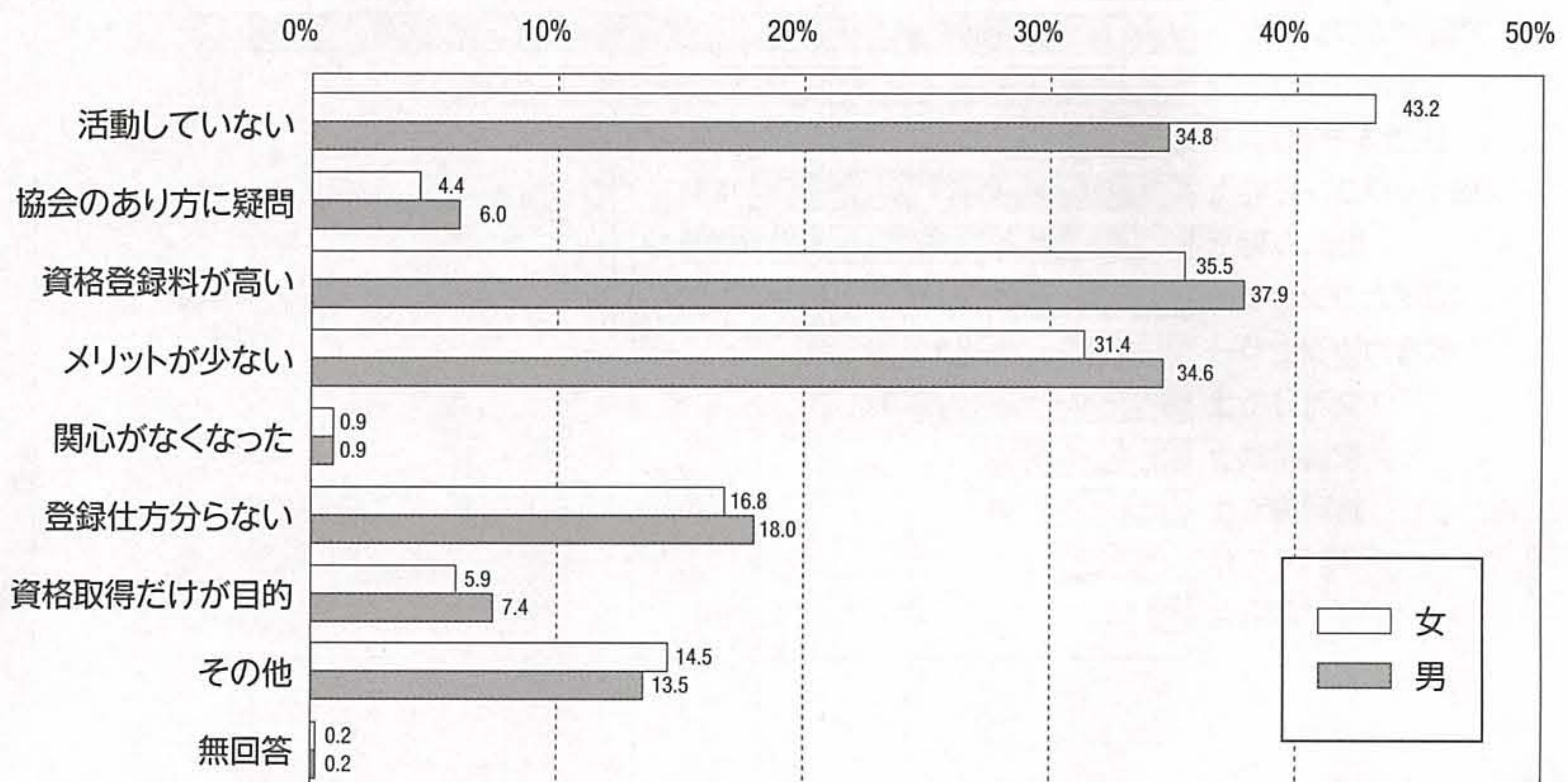
### 「活動をしていないから」が40%

(10で「資格は持っているが会員登録していない」と答えた方みの回答)

資格登録をしていない理由は、全体では「現在、産業カウンセリングにかかわる『活動』をしていないから」が最も多く40.1%であるが、次に「資格登録料が高いから」36.4%、「資格登録をしても得られるメリットが少ないと思うから」32.6%が続き、資格の価値についての疑問が少なくない。また、「資格登録の仕方が分からないから」という人が17.2%いる。

性別の違いはほとんどないが、女性では「現在、産業カウンセリングにかかわる『活動』をしていないから」が43.2%、男性では「資格登録料が高いから」が37.9%で最も多くなっている。(図15)

【図15 資格登録していない理由 (2つまで選択)】



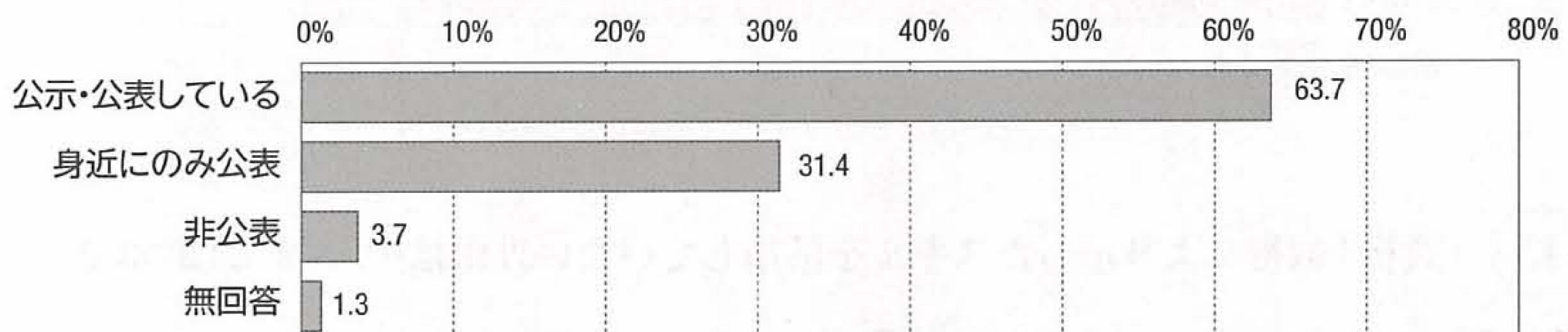


## 12 「資格」取得を周囲に公表している程度は…（質問7：1つ選択）

### 「資格取得を周囲に公にしている」人は64%

協会認定の産業カウンセラー等の資格を取得している人が、周囲に明示（公示または公表）している程度は、「自分の名刺に記載したり、勤務先に公表したりしている」が63.7%と最も多く、次が「身近な人には個人的に言っているが、勤務先には公表していない」が31.4%である。なお、「誰にも言っていない」は3.7%と少ない。（図16）

【図16 「資格」取得を周囲に公表している程度（1つ選択）】



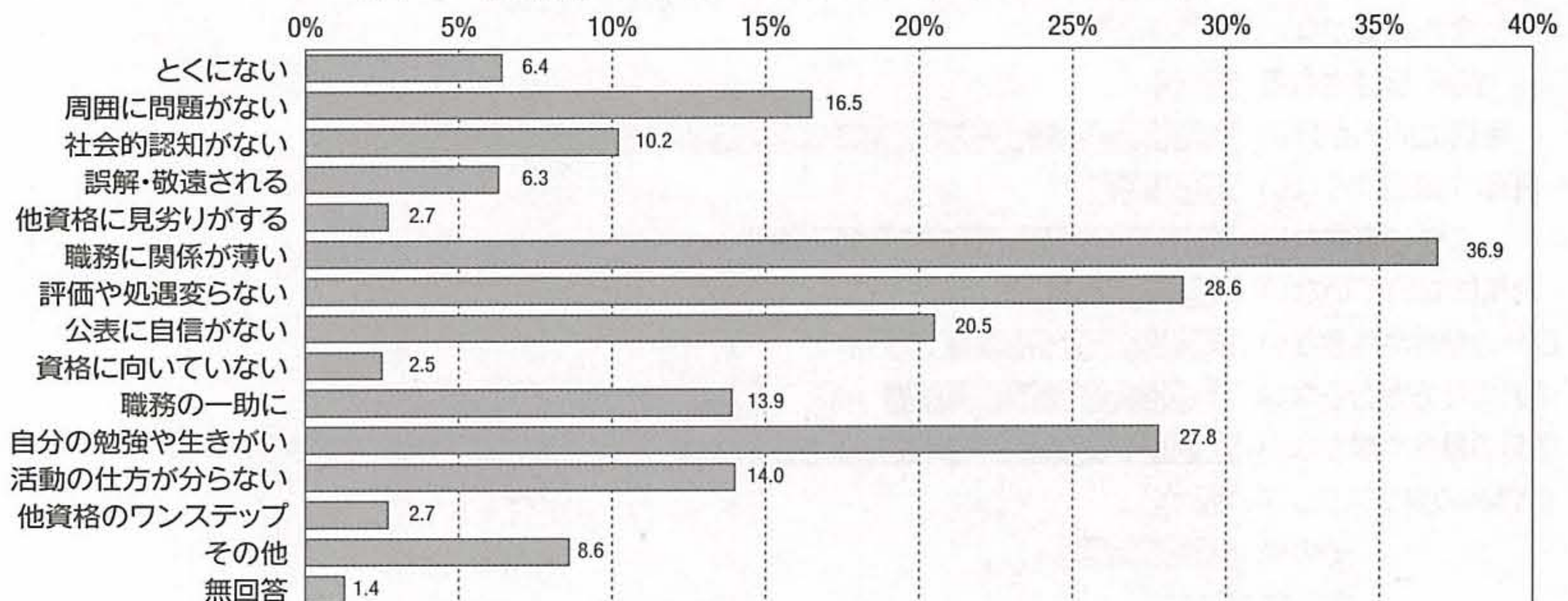
## 13 「資格」を公表していない理由は…（質問8：3つまで選択）

### 最も多いのは「資格が現在の担当業務に関係薄いから」で、37%

（12で「勤務先に公表していない」「誰にも言っていない」と答えた方みの回答）

協会認定の産業カウンセラー等の資格を公表していない理由は、「勤務先での現在の担当業務では「資格」は関係が薄いから」が最も多く36.9%、以下「「資格」を公表しても周りや勤務先の評価や処遇は変わらないから」28.6%、「「資格」取得は自分自身の勉強や生きがいのためだったから」27.8%、「技能や経験が不足していて「資格」公表に自信がないから」20.5%と続く。また、「資格」を使ってどういう場で活動できるかわからないから」という人が14.0%いる。（図17）

【図17 「資格」を公表していない理由（3つまで選択）】



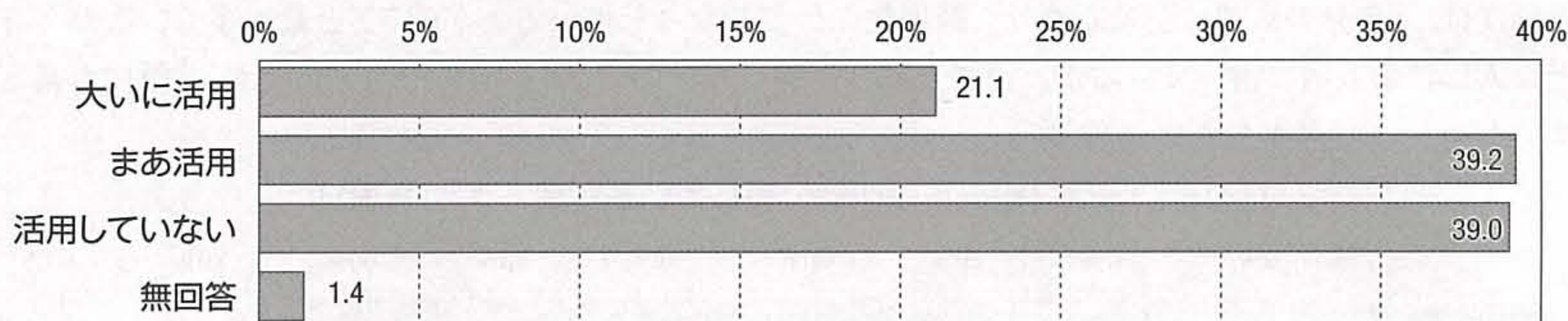


14 「資格」取得により培ったスキルの活用の程度は… (質問9：1つ選択)

「大いに活かしている」は21%、「ほとんど活かしていない」が39%

協会認定の産業カウンセラー等の資格取得により培ったスキルを活かして活動している程度をみると、「大いに活かして活動している」は21.1%で、「まあ活かして活動している」が39.2%で合わせて6割になるが、「ほとんど活かして活動していない」が39.0%でほぼ4割に達している。(図18)

【図18 「資格」取得により培ったスキルの活用の程度 (1つ選択)】



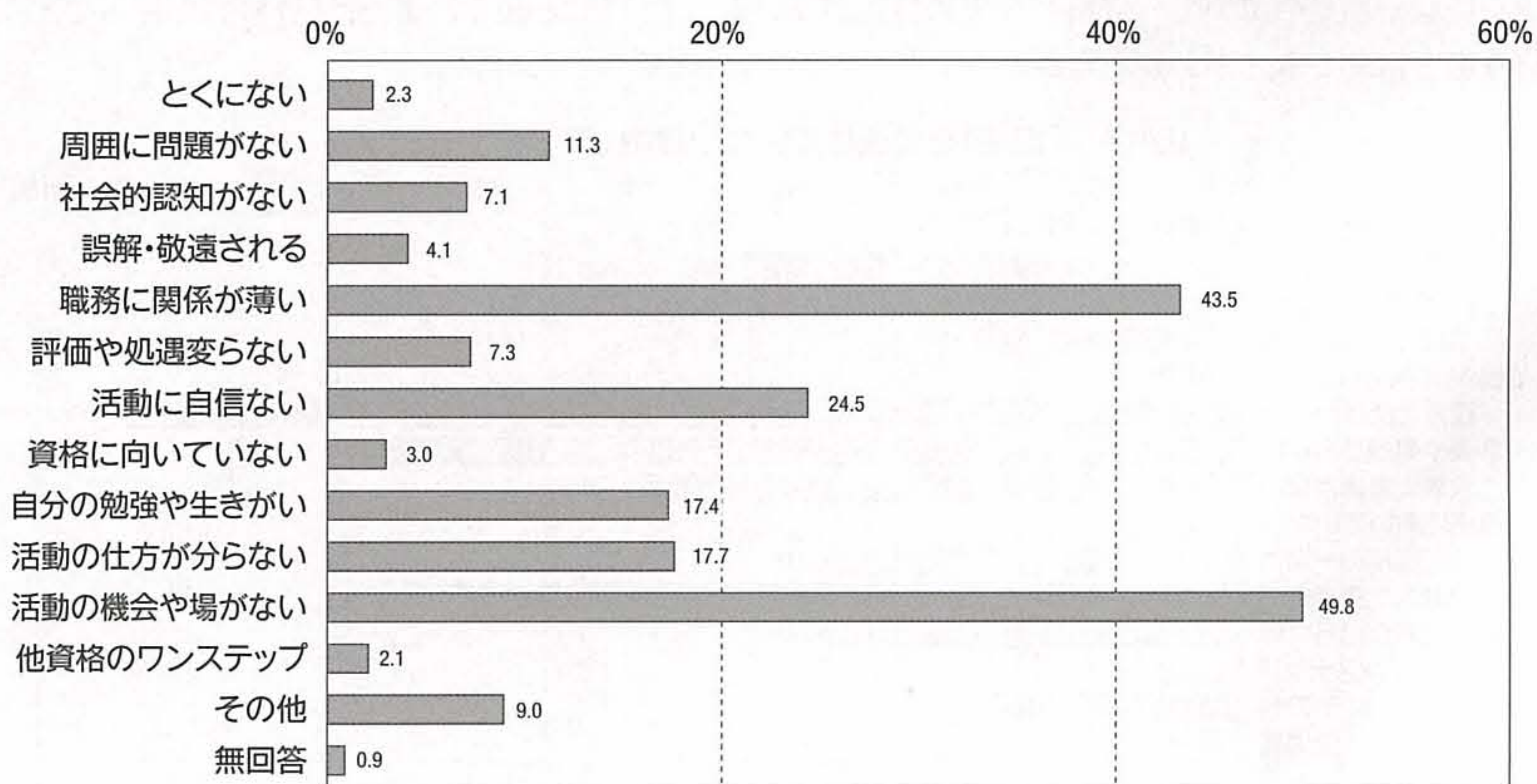
15 「資格」取得により培ったスキルを活用していない理由は… (質問10：3つまで選択)

最も多いのは「活動したくても機会や場がない」で、50%

(14で「ほとんど活用していない」と答えた方のみの回答)

資格取得により培ったスキルを「ほとんど活かして活動していない」理由で最も多いのは、「活動したくても現実にその機会や場がないから」が49.8%、次に「勤務先での現在の担当職務では「活動」とは関係が薄いから」が43.5%で、この2つが突出している。以下「技能や経験が不足していて「活動」に自信がないから」が24.5%、「資格」を使ってどういう場で「活動」ができるか分からないから」が17.7%である。さらに、「資格」取得は「活動」をするためというより、自分自身の勉強や生きがいのためだったから」という人も17.4%いる。(図19)

【図19 「資格」取得により培ったスキルを活用していない理由 (3つまで選択)】





# IV

## 資格を活かした活動は？

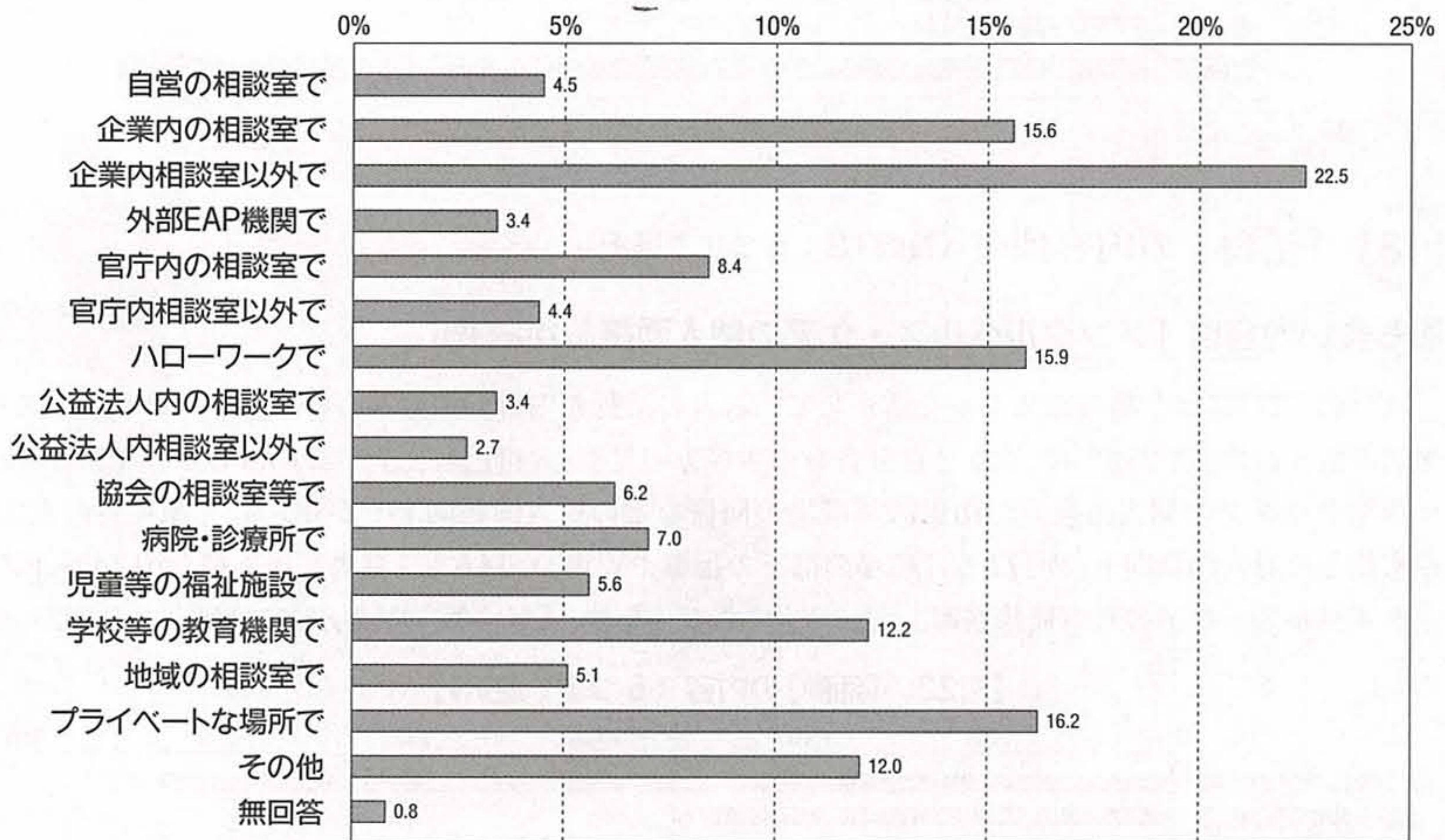
(以下16~20までは、14で「大いに活動している」「まあ活動している」と答えた方だけの回答)

### 16 「活動」を行なっている場所は… (質問11: 3つまで選択)

#### 最も多い場所は「企業内相談室以外の職場内で」が23%

「資格」取得により培ったスキルを活かしている人の活動の場所で最も多いのは、「一般企業内の相談室以外の職場（オフィス、会議室など）で」22.5%で、以下「自宅、相手宅、喫茶店などプライベートな場所で」が16.2%、「ハローワーク（ジョブカフェ、ヤングワークプラザなどを含む）で」が15.9%、「一般企業内の相談室で」が15.6%、「学校等の教育機関で」が12.2%である。正式な相談室よりも、オフィスや自宅など相談室以外の場所での活動が上位である。(図20)

【図20 「活動」を行っている場所（3つまで選択）】



★16~20でいう「活動」とは、産業カウンセリングの活動領域である「メンタルヘルス・ケア」「キャリア・カウンセリング」「人間関係開発」のほか、職場や日常生活での活動を含む。  
 ★18でいう「人間関係開発」とは、職場の人間関係や組織風土を改善するための実践的教育的働きかけを指す。

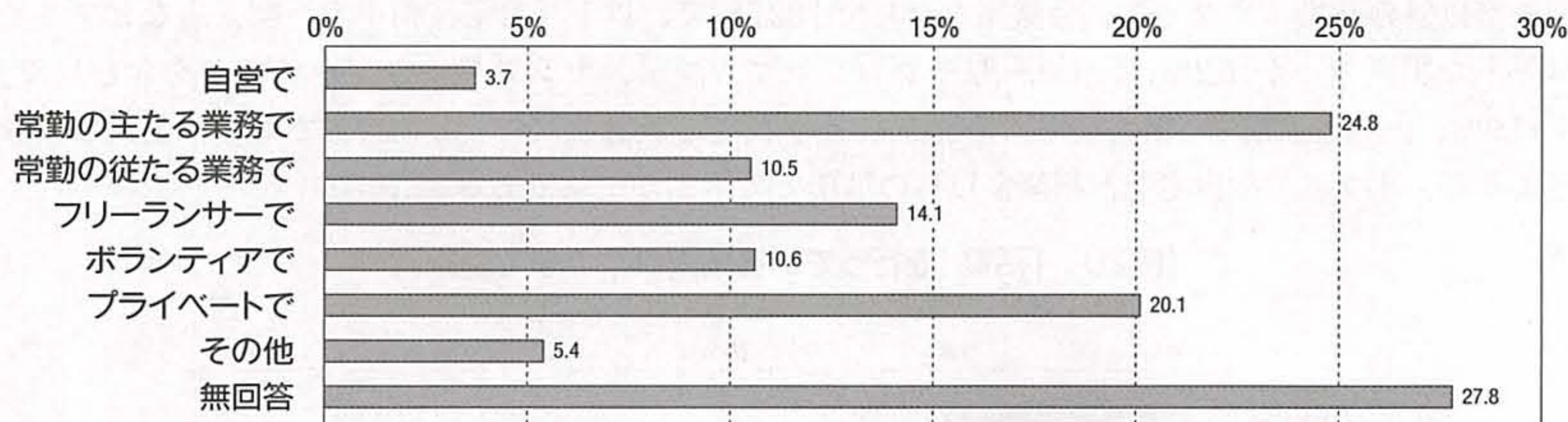


17 「活動」の形態は… (質問12: 2つまで選択)

最も多い形態は「常勤雇用の主たる業務で」が25%

「資格」取得により培ったスキルを活かしている人の活動の形態で最も多いのは、「常勤雇用の主たる業務で」24.8%で、次が「プライベートで」で20.1%、以下「フリーランサーで (契約や派遣、パート雇用されて)」が14.1%、「ボランティアで」が10.6%、「常勤雇用の主たる業務以外で」が10.5%、と多岐にわたっている。なお、「無回答」が27.8%にのぼる。(図21)

【図21 「活動」の形態は (2つまで選択)】

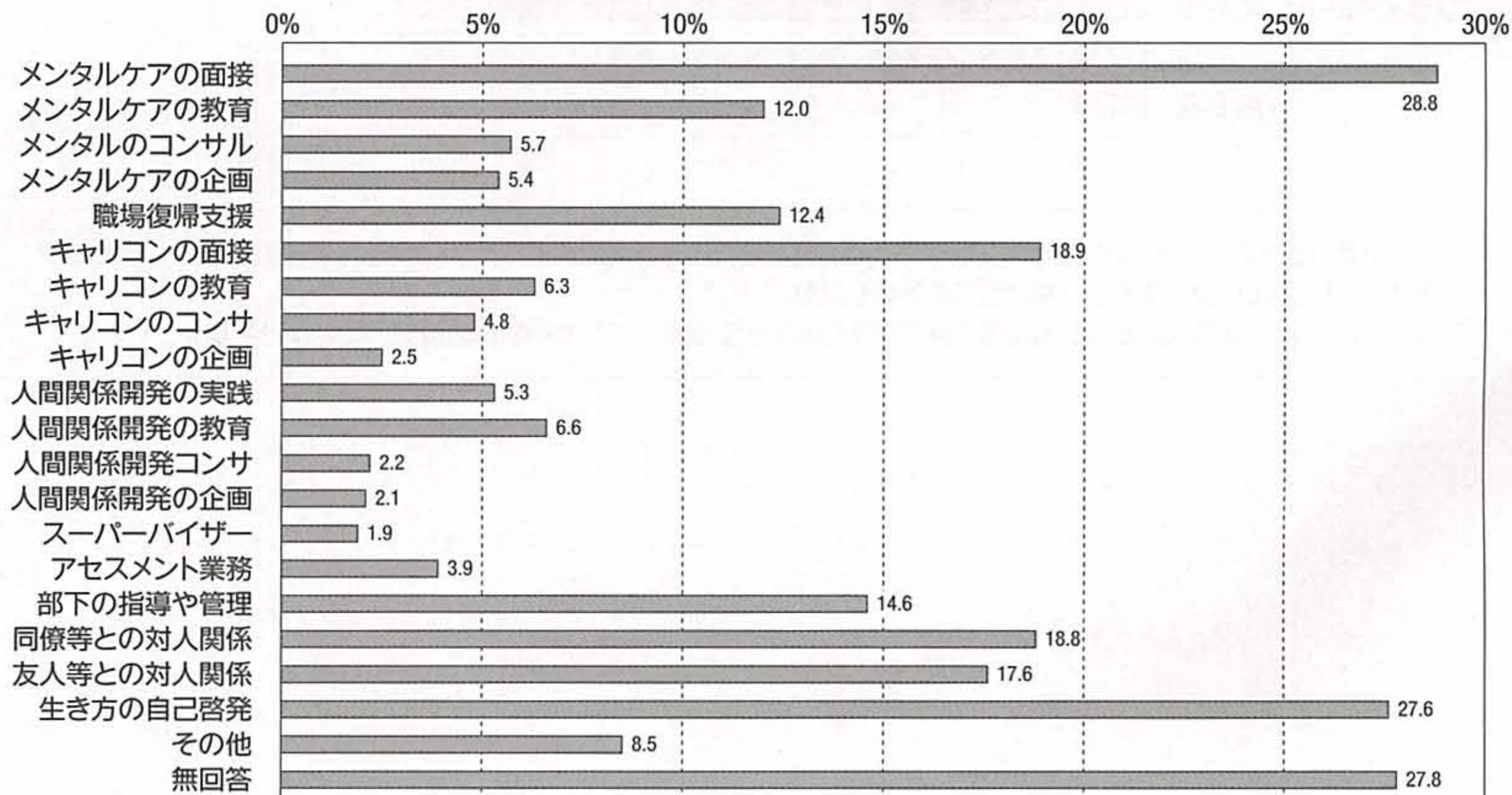


18 「活動」の内容は… (質問13: 5つまで選択)

最も多い内容は「メンタルヘルス・ケアの個人面接」が29%

「資格」取得により培ったスキルを活かしている人の活動の内容で最も多いのは、「メンタルヘルス・ケアの個人面接」が28.8%で、次が「自分自身の生き方の見直し、自己啓発」で27.6%、以下「キャリア・カウンセリングの個人面接」が18.9%、「職場の同僚などの対人関係向上」が18.8%、「職場外の友人や家族との対人関係向上」が17.6%、「職場の部下の指導や管理」が14.6%、「職場復帰支援」が12.4%、「メンタルヘルス・ケアの教育研修講師」が12.0%である。なお、「無回答」が27.8%にのぼる。(図22)

【図22 「活動」の内容 (5つまで選択)】





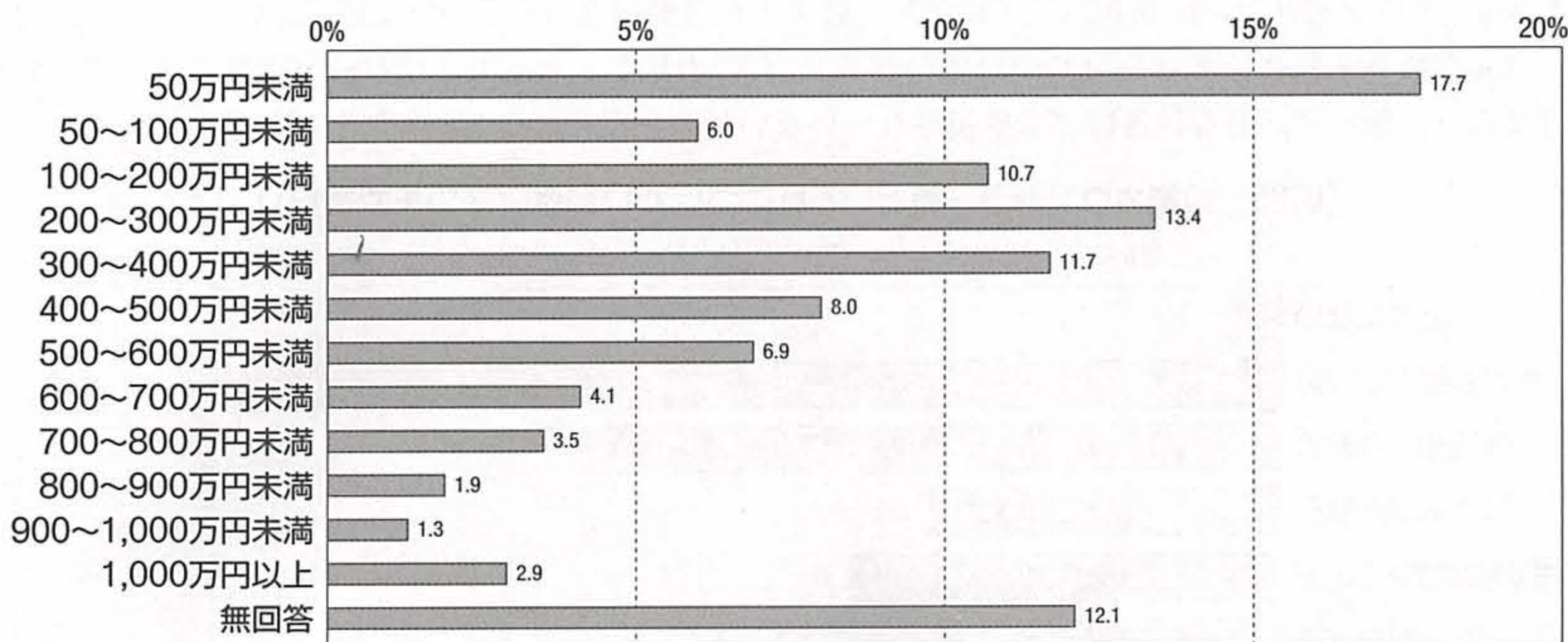
19 「活動」で得る報酬は… (質問14: 1つ選択)

最も多いのは「50万円未満」、しかし「1,000万円以上」も3%

(17で「自営で」「常勤雇用の主たる業務で」「フリーランサーで」のいずれかを選んだ方のみの回答)

「資格」取得により培ったスキルを活かしている人が活動で得る報酬額(2008年の年間総額(税込み))で最も多いのは、「50万円未満」が17.7%であるが、次いで「200万円以上、300万円未満」の13.4%をピークに、「300万円以上、400万円未満」が11.7%、「100万円以上、200万円未満」10.7%と漸減している。しかしながら、「1,000万円以上」が2.9%おり、報酬の幅は広い。(図23)

【図23 「活動」で得る報酬 (1つ選択)】

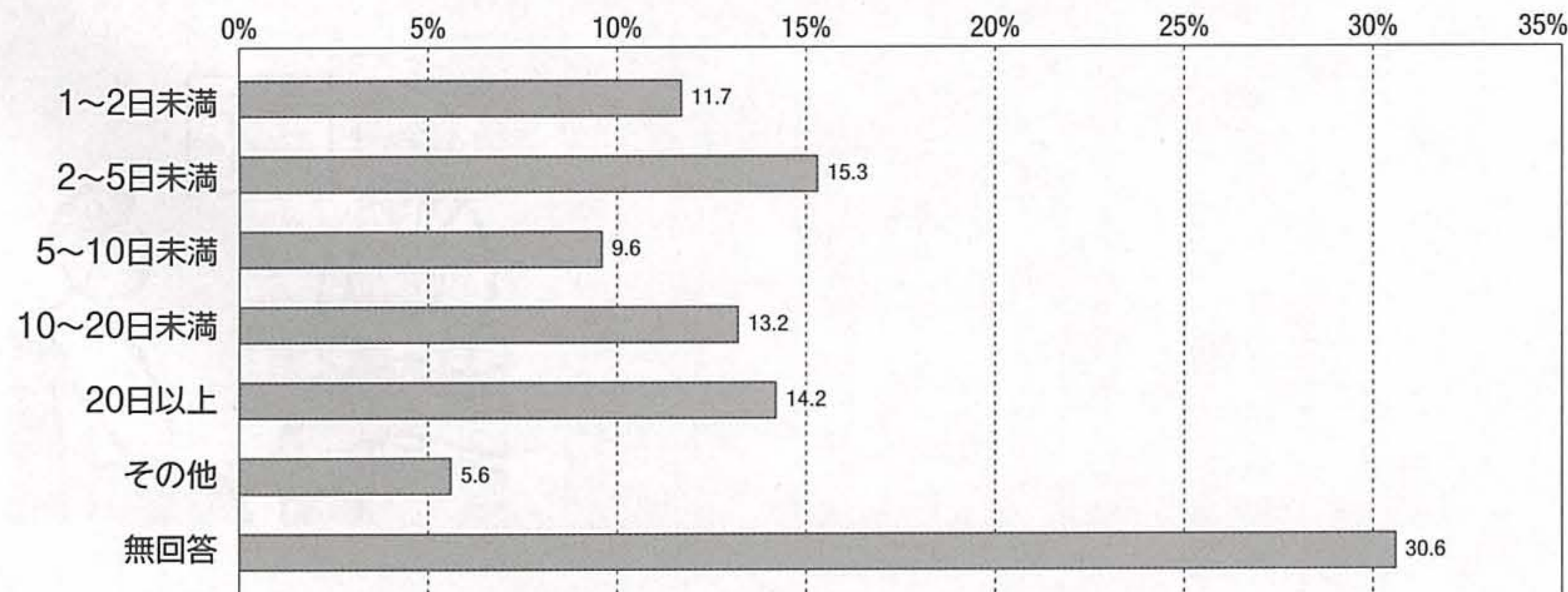


20 「活動」の1ヶ月平均日数は… (質問15: 1つ選択)

5日未満 (27%) と10日以上 (27%) に二分

「資格」取得により培ったスキルを活かしている人の1ヶ月の平均活動日数で最も多いのは、「2日以上、5日未満」で15.3%、次いで「20日以上」が14.2%、「10日以上、20日未満」が13.2%、「1日以上、2日未満」が11.7%である。つまり、大きくみれば5日未満が27.0%、10日以上が27.4%と二分される。なお、「無回答」が30.6%もあるため、他の選択肢の比率が相対的に低くなっている。(図24)

【図24 「活動」の1ヶ月平均日数 (1つ選択)】





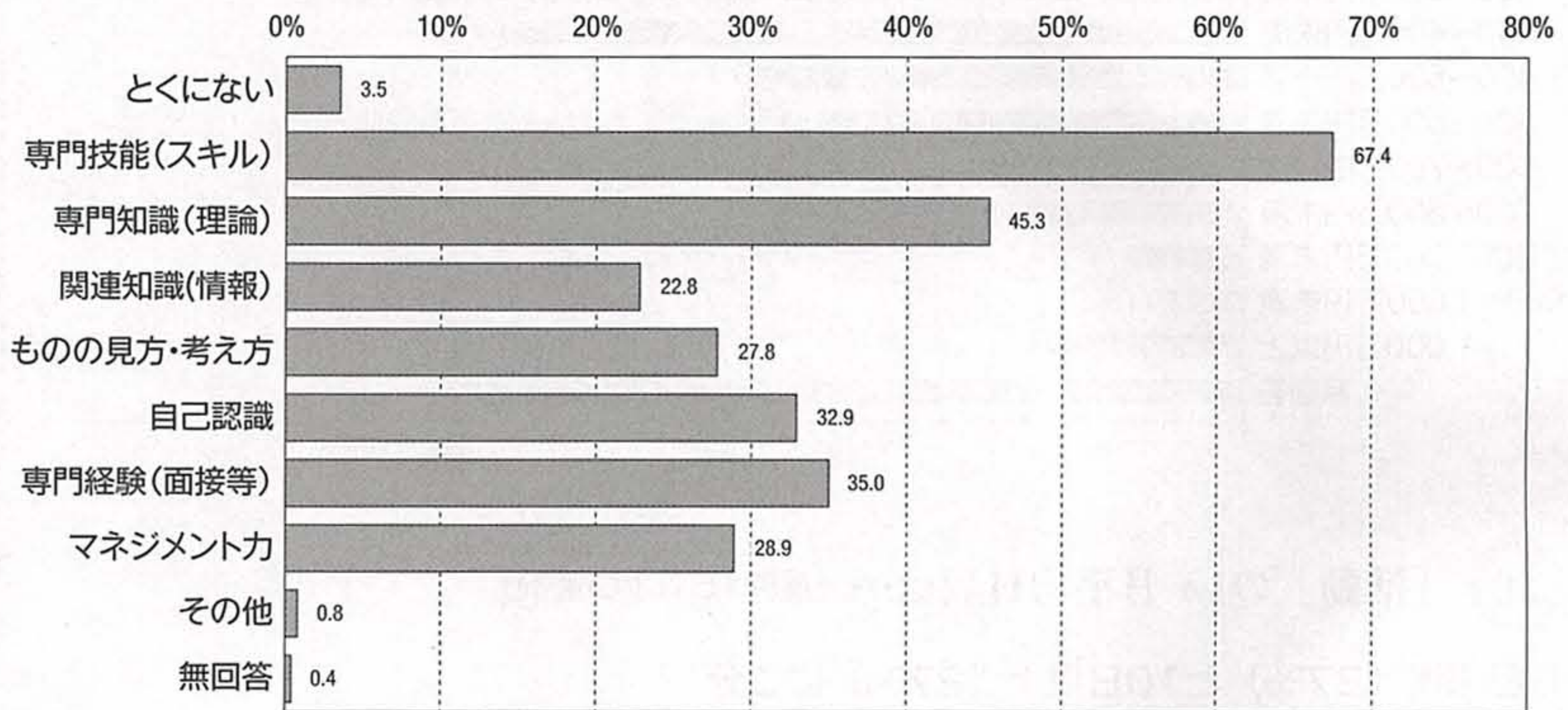
### ②1 産業カウンセラー等として身につけたい特性は… (質問16：3つまで選択)

#### 最も多いのは「カウンセリング関連技能」で、67%

産業カウンセラー等としてさらに身につけたい特性で最も多いのは、「カウンセリング関連技能（スキル）」で67.4%、次に「カウンセリング専門知識（カウンセリング理論、各種療法、等）」が45.3%、以下「経験」35.0%、「自分についての認識」32.9%、「マネジメント力」28.9%、「ものの見方・考え方」27.8%「カウンセリング関連知識（労働法規、経済・社会動向など）」22.8%と続く。

設定した選択肢のうち「自分についての認識」「ものの見方・考え方」はパーソナリティ的な特性であり、他の技能的な特性ほどは重視されていない傾向を示している。(図25)

【図25 産業カウンセラー等として身につけたい特性（3つまで選択）】





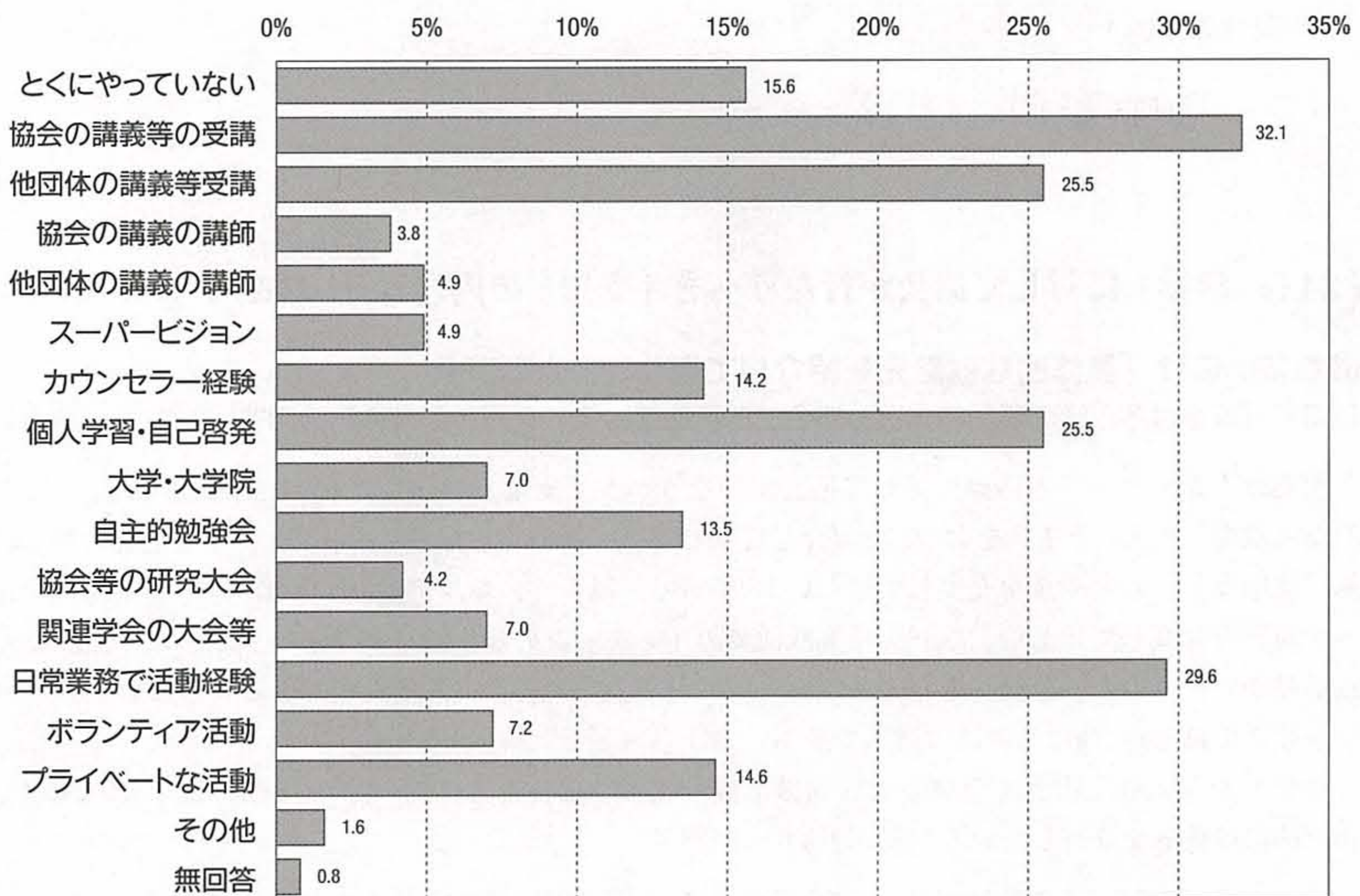
## 22 現在のスキルを維持・向上するための活動は… (質問17: 3つまで選択)

### 「講座等受講」型、「日常業務で活動」型、「個人的学習・自己啓発」型に三分

現在のスキルを維持・向上するための活動として最も多いのは、「協会が企画する講義、実習、演習(少人数でのケース研究など)の受講」で32.1%、以下「勤務先の日常業務のなかでの意識的な活動の経験」29.6%、「他の団体が企画する講義、実習、演習(少人数でのケース研究など)の受講」25.5%と「個人学習(自己啓発)」25.5%、「日常のプライベートな場での意識的な活動の経験」14.6%が続く。

設定した選択肢を大きく分けると「既成の講座などの受講」型と「勉強会・学会などへの自主的参加」型、それに「日常での意識的な活動経験」型があるが、相対的に選択比率が高いのは「既成の講座などの受講」型、次が「日常での意識的な活動経験」型である。なお、「とくにやっていない」は15.6%にのぼる。(図26)

【図26 現在のスキルを維持・向上するための活動(3つまで選択)】



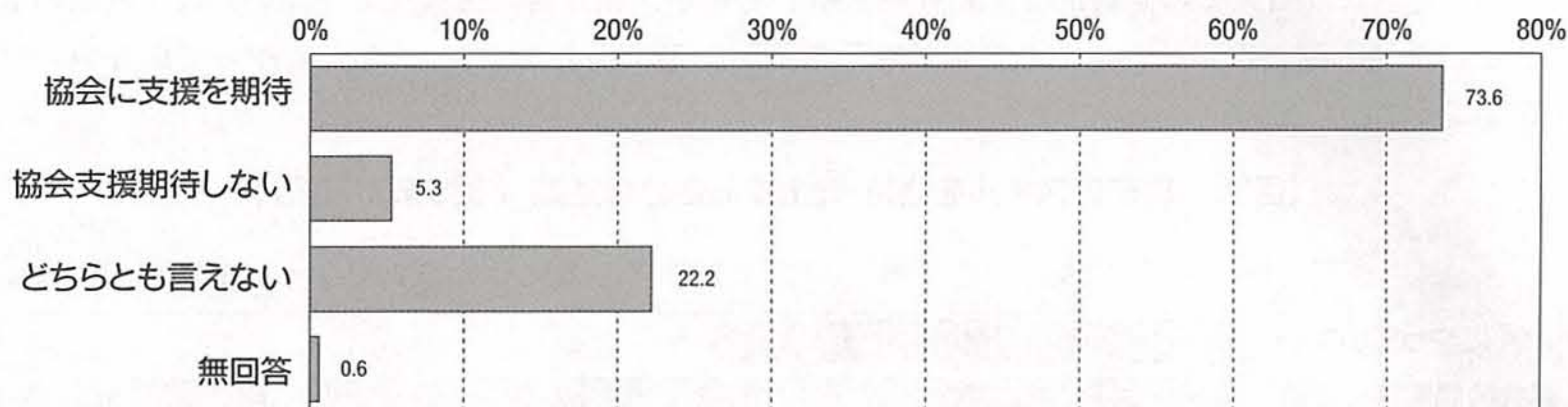


23 「活動」に対する協会の役割（支援）についての意見は…（質問18：1つ選択）

「協会に活動の支援を期待する」が74%

産業カウンセラー等の活動に対する協会の役割（支援）についての意見で、「資格付与以後の活動の支援も協会に期待している」人は73.6%を占め、それに対して「資格取得以後は自己責任で活動すべきで協会の支援は期待していない」人は5.3%にすぎない。なお、「どちらとも言えない」が22.2%にのぼる。（図27）

【図27 「活動」に対する協会の役割(支援)についての意見（1つ選択）】



24 「活動」に対して協会が行なうべき「支援」の内容は…（質問19：3つまで選択）

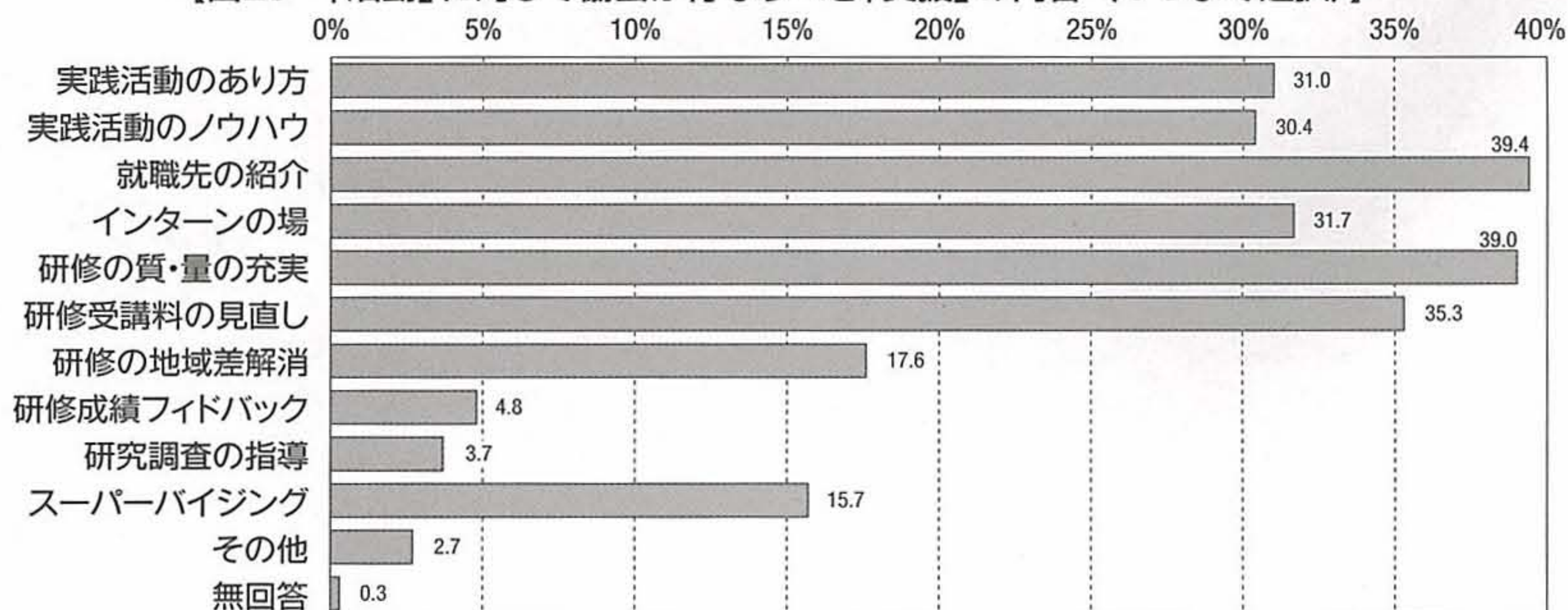
最も多いのは「具体的な就職先を紹介してほしい」が39%

（23で「資格付与以後の活動の支援も協会に期待している」を選んだ方だけの回答）

産業カウンセラー等の活動に対して協会が行なうべき「支援」の内容でもっとも多いのは、「具体的な就職先（ボランティアを含む）を紹介してほしい」で39.4%、次が「スキルアップする勉強の場（研修、講座など）の質や量を充実してほしい」39.0%で、以下「スキルアップする場（研修、講座など）の受講料を見直してほしい」35.3%、「実践活動のインターンの場を設けてほしい」31.7%、「どんな実践活動ができるのか、目指すあり方を紹介してほしい」31.0%、「実践活動ができるようになるノウハウを教えてほしい」30.4%がほぼ同率で並ぶ。

設定した選択肢を大きく分けると「実践活動の支援」と「スキルアップの支援（場）」になるが、相対的には前者を期待している会員が多い。（図28）

【図28 「活動」に対して協会が行なうべき「支援」の内容（3つまで選択）】





# おわりに

このたびの「産業カウンセラー等の実態調査」は、会員のみでなく会員以外の資格取得者をも対象とした、協会にとって初めての大規模な調査でした。複雑な構成の質問紙にもかかわらず、皆様のご協力のおかげで1万5千人にのぼる方々からご回答いただきありがとうございました。

本報告書では、結果報告の第一弾として単純集計の結果の数値のみを解説なしでご報告いたしました。これは、まず皆様に結果の概要を早目にお知らせすることと、結果の客観的、適切な解釈等については、更なる分析に基づく検討が必要と考えたためです。したがって、本報告書の数値から憶測で解説することは避けさせていただきました。

「更なる分析」としては、回答者の主要な属性（どの資格をお持ちか、資格取得後何年たっているか、会員登録をしているか、スキル等を活かした「活動」をどの程度やっているか、など）ごとの比較（クロス集計分析）を行っております。また、5千人にのぼる方々から「自由意見」にご記述をいただきました。これに関しましても内容分析を行い協会運営に反映させる予定です。

これらの結果につきましては、2010年初に、第二弾として会報、ホームページ、全国研究大会などを通じて改めてご報告する所存です。

この調査から得られた結果は、協会本部はもちろん、産業カウンセラー等の資格を取得された皆様にとりましても、ご自身のあり方を振り返る大変貴重なデータであり、財産となります。

調査の計画、実施、分析に当たっております私どもも、その重さを肝に銘じております。

今後、同じ内容の調査を数年おきに定期的実施し、皆様の実態および意識の変化を追うことも計画しておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

産業カウンセラー等の実態調査委員会

委員長 渡邊 忠

委員 和田 幸子

委員 井田 喜治

委員 奥 憲太

事務局 服部奈保子

(アドバイザー) 菰田 孝行

(東京医科大学)

※本調査報告書についてのご感想等は下記宛てEメールまたはFAXでお願いいたします。

(社)日本産業カウンセラー協会内産業カウンセリング研究所

担当：服部奈保子

E-mail : chousa@counselor.or.jp FAX : 03 - 3438 - 4487



# 資料 (数表)

各表のタイトルの最後の (SA) は「選択肢の内、1個を選択」、(MA) は「選択肢の内、複数個を選択」であり、頭の数字はその個数を表します。

## 質問1 取得しているカウンセリング関連資格(MA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
ない	410	2.8
産業カウンセラー(初級産業カウンセラー)	14164	95.9
シニア産業カウンセラー(中級産業カウンセラー)	792	5.4
(協会認定)キャリア・コンサルタント	3712	25.1
(他団体認定)キャリア・コンサルタント	1170	7.9
2級キャリア・コンサルティング技能士	177	1.2
臨床心理士	228	1.5
認定カウンセラー(日本カウンセリング学会)	170	1.2
教育カウンセラー	551	3.7
交流分析士	532	3.6
家族相談士	134	0.9
論理療法士	25	0.2
その他	1621	11.0
無回答	20	0.1

## 質問2 資格の取得後の年数:

### (1)産業カウンセラー(初級産業カウンセラー)(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14164	100.0
1年未満	2402	17.0
1年以上、3年未満	3753	26.5
3年以上、5年未満	2724	19.2
5年以上、10年未満	3280	23.2
10年以上、15年未満	1389	9.8
15年以上、20年未満	389	2.7
20年以上	126	0.9
無回答	112	0.8

### (2)シニア産業カウンセラー(中級産業カウンセラー)(SA)

	回答数	割合(%)
総数	792	100.0
1年未満	52	6.6
1年以上、3年未満	80	10.1
3年以上、5年未満	126	15.9
5年以上、10年未満	145	18.3
10年以上、15年未満	87	11.0
15年以上、20年未満	55	6.9
20年以上	9	1.1
無回答	238	30.1

### (3)キャリア・コンサルタント(2003年度以降)(SA)

	回答数	割合(%)
総数	3712	100.0
1年未満	461	12.4
1年以上、3年未満	1118	30.1
3年以上、5年未満	1322	35.6
5年以上	697	18.8
無回答	114	3.1

## 質問3 協会認定の資格の取得後の状況や気持などの変化:

### (1)産業カウンセラー(初級産業カウンセラー)(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	14164	100.0
とくになかった	1587	11.2
正規雇用で就職できた	174	1.2
自営で開業した	247	1.7
契約雇用(非常勤、派遣、嘱託など)が決まった	1424	10.1
ボランティアで活動することになった	957	6.8
勤務先での待遇(給与、手当など)がよくなった	303	2.1
勤務先での職務として、メンタルヘルス、キャリア開発、組織開発関係の相談、教育訓練などの業務につけた(職務の転換)	784	5.5
勤務先での主たる業務ではないが、メンタルヘルス、キャリア開発、組織開発関係も行なうようになった(職務の拡大)	1806	12.8
勤務先での業務ではないが、同僚・部下、友人、家族などから個人的に相談を持ちかけられることが増えた	2114	14.9
同僚・部下、友人、家族など周りの人の自分を見る目が変わった	1580	11.2
名刺や履歴書に書ける資格が増えてよかった	3073	21.7
自分自身に自信がつき、ゆとりができた	4481	31.6
他の資格取得ステップへ進む動みになった	3413	24.1
「資格がある」ということで周りから期待され、プレッシャーを感じた	303	2.1
日常の人づき合いで自分や他者の言動に留意するようになった	6844	48.3
その他	776	5.5
無回答	131	0.9

### (2)シニア産業カウンセラー(中級産業カウンセラー)(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	792	100.0
とくになかった	49	6.2
正規雇用で就職できた	9	1.1
自営で開業した	28	3.5
契約雇用(非常勤、派遣、嘱託など)が決まった	118	14.9
ボランティアで活動することになった	41	5.2
勤務先での待遇(給与、手当など)がよくなった	33	4.2
勤務先での職務として、メンタルヘルス、キャリア開発、組織開発関係の相談、教育訓練などの業務につけた(職務の転換)	60	7.6
勤務先での主たる業務ではないが、メンタルヘルス、キャリア開発、組織開発関係も行なうようになった(職務の拡大)	93	11.7
勤務先での業務ではないが、同僚・部下、友人、家族などから個人的に相談を持ちかけられることが増えた	78	9.8
同僚・部下、友人、家族など周りの人の自分を見る目が変わった	72	9.1
名刺や履歴書に書ける資格が増えてよかった	130	16.4
自分自身に自信がつき、ゆとりができた	251	31.7
他の資格取得ステップへ進む動みになった	81	10.2
「資格がある」ということで周りから期待され、プレッシャーを感じた	13	1.6
日常の人づき合いで自分や他者の言動に留意するようになった	130	16.4
その他	41	5.2
無回答	224	28.3

### (3)キャリア・コンサルタント(2003年度以降)(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	3712	100.0
とくになかった	554	14.9
正規雇用で就職できた	50	1.3
自営で開業した	74	2.0
契約雇用(非常勤、派遣、嘱託など)が決まった	570	15.4
ボランティアで活動することになった	172	4.6
勤務先での待遇(給与、手当など)がよくなった	89	2.4
勤務先での職務として、メンタルヘルス、キャリア開発、組織開発関係の相談、教育訓練などの業務につけた(職務の転換)	291	7.8
勤務先での主たる業務ではないが、メンタルヘルス、キャリア開発、組織開発関係も行なうようになった(職務の拡大)	493	13.3
勤務先での業務ではないが、同僚・部下、友人、家族などから個人的に相談を持ちかけられることが増えた	402	10.8
同僚・部下、友人、家族など周りの人の自分を見る目が変わった	311	8.4
名刺や履歴書に書ける資格が増えてよかった	911	24.5
自分自身に自信がつき、ゆとりができた	1040	28.0
他の資格取得ステップへ進む動みになった	758	20.4
「資格がある」ということで周りから期待され、プレッシャーを感じた	103	2.8
日常の人づき合いで自分や他者の言動に留意するようになった	1002	27.0
その他	176	4.7
無回答	123	3.3

## 質問4 資格の取得時の動機:

### (1)産業カウンセラー(初級産業カウンセラー)(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	14164	100.0
友人や知人、家族に勧められたから	1934	13.7
勤務先の上司などから職務上必要だと勧められたから	1265	8.9
勤務先での自分の職域を広げたかったから	3667	25.9
これからの就職や転職の際に有利になると思ったから	1855	13.1
就職や転職の際に必須条件と言われたから	149	1.1
カウンセリング(キャリアカウンセリングを含む)に関わる仕事に就きたかったから	3764	26.6
とりあえず産業カウンセラー等の資格をもっておこうと思ったから	1245	8.8
カウンセラー(キャリア・コンサルタントを含む)としてのレベルアップをしたかったから	1685	11.9
心理学やカウンセリング(キャリアカウンセリングを含む)の勉強をしたかったから	6556	46.3
自分自身の生きがい、ライフワークとしたかったから	2797	19.7
生き方(キャリア問題を含む)や対人関係など自分自身が抱える心の問題を解決したかったから	2514	17.7
友人や知人、家族など周りの人の援助の必要性に迫られたから	890	6.3
心の問題(キャリア問題を含む)を抱えた人を広く援助したかったから	5243	37.0
他の資格を取得するためなどのワンステップだったから	637	4.5
その他	580	4.1
無回答	69	0.5



## (2)シニア産業カウンセラー(中級産業カウンセラー)(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	792	100.0
友人や知人、家族に勧められたから	23	2.9
勤務先の上司などから職務上必要だと勧められたから	24	3.0
勤務先での自分の職域を広げなかったから	85	10.7
これからの就職や転職の際に有利になると思ったから	82	10.4
就職や転職の際に必須条件と言われたから	8	1.0
カウンセリング(キャリアカウンセリングを含む)に関わる仕事に就きたかったから	117	14.8
とりあえず産業カウンセラー等の資格をもっておこうと思ったから	26	3.3
カウンセラー(キャリア・コンサルタントを含む)としてのレベルアップをしたかったから	332	41.9
心理学やカウンセリング(キャリアカウンセリングを含む)の勉強をしたかったから	139	17.6
自分自身の生きがい、ライフワークとしたかったから	188	23.7
生き方(キャリア問題を含む)や対人関係など自分自身が抱える心の問題を解決したかったから	39	4.9
友人や知人、家族など周りの人の援助の必要性に迫られたから	18	2.3
心の問題(キャリア問題を含む)を抱えた人を広く援助したかったから	196	24.7
他の資格を取得するためなどのワンステップだったから	16	2.0
その他	27	3.4
無回答	237	29.9

## (3)キャリア・コンサルタント(2003年度以降)(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	3712	100.0
友人や知人、家族に勧められたから	188	5.1
勤務先の上司などから職務上必要だと勧められたから	213	5.7
勤務先での自分の職域を広げなかったから	1071	28.9
これからの就職や転職の際に有利になると思ったから	713	19.2
就職や転職の際に必須条件と言われたから	95	2.6
カウンセリング(キャリアカウンセリングを含む)に関わる仕事に就きたかったから	888	23.9
とりあえず産業カウンセラー等の資格をもっておこうと思ったから	186	5.0
カウンセラー(キャリア・コンサルタントを含む)としてのレベルアップをしたかったから	1424	38.4
心理学やカウンセリング(キャリアカウンセリングを含む)の勉強をしたかったから	894	24.1
自分自身の生きがい、ライフワークとしたかったから	715	19.3
生き方(キャリア問題を含む)や対人関係など自分自身が抱える心の問題を解決したかったから	320	8.6
友人や知人、家族など周りの人の援助の必要性に迫られたから	131	3.5
心の問題(キャリア問題を含む)を抱えた人を広く援助したかったから	862	23.2
他の資格を取得するためなどのワンステップだったから	162	4.4
その他	106	2.9
無回答	122	3.3

## 質問5 協会認定の資格の受験資格:

## (1)産業カウンセラー(初級産業カウンセラー)(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14164	100.0
協会が主催(もしくは協会が委託)する養成講座・通信講座・シニアコース講座(向上訓練)などを経て	12155	85.8
カウンセリング業務または人事労務管理業務に通算4年(シニアは10年)以上従事して	708	5.0
大学で心理学または心理学隣接諸科学を専攻し学士(シニアは修士以上)の学位を取って	1102	7.8
無回答	233	1.6

## (2)シニア産業カウンセラー(中級産業カウンセラー)(SA)

	回答数	割合(%)
総数	792	100.0
協会が主催(もしくは協会が委託)する養成講座・通信講座・シニアコース講座(向上訓練)などを経て	439	55.4
カウンセリング業務または人事労務管理業務に通算4年(シニアは10年)以上従事して	118	14.9
大学で心理学または心理学隣接諸科学を専攻し学士(シニアは修士以上)の学位を取って	69	8.7
無回答	173	21.8

## 質問6 今後取得したいと思われるカウンセリング関連資格(MA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
とくにない	3456	23.4
産業カウンセラー	528	3.6
シニア産業カウンセラー	5435	36.8
(協会認定)キャリア・コンサルタント	3875	26.2
(他団体認定)キャリア・コンサルタント	509	3.4
2級キャリア・コンサルティング技能士	2258	15.3
臨床心理士	2622	17.7
認定カウンセラー(日本カウンセリング学会)	1182	8.0
教育カウンセラー	1215	8.2
交流分析士	1452	9.8
家族相談士	1120	7.6
論理療法士	793	5.4

その他	748	5.1
無回答	228	1.5

## 質問7 「資格」取得を周囲に公表している程度(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14312	100.0
自分の名刺に記載、または事務所に公示、または勤務先の上司に公表(報告)している	9113	63.7
職場・家族などの身近な人には個人的に言っているが、勤務先等には公にしていない	4498	31.4
誰にも言っていない	526	3.7
無回答	180	1.3

## 質問8 「資格」を公表していない理由(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	5024	100.0
とくにない	322	6.4
勤務先や周囲に「資格」に関するような問題がないから	827	16.5
どう「資格」か、社会的にまだ認知されていないから	513	10.2
「資格」について説明しても、誤解されたり敬遠されたりするから	315	6.3
他の類似のカウンセリング資格に比べて見劣りする感じがするから	134	2.7
勤務先での現在の担当職務では「資格」は関係が薄いから	1855	36.9
「資格」を明示(公表)しても周りや勤務先の評価や処遇は変わらないから	1436	28.6
技能や経験が不足して「資格」明示(公表)に自信がないから	1029	20.5
「資格」は取ったが、自分は産業カウンセラー等に向いていないと思うから	126	2.5
「資格」取得は勤務先の担当職務遂行の一助にするためだったから	699	13.9
「資格」取得は自分自身の勉強や生きがいのためだったから	1397	27.8
「資格」を使ってどういふ場で活動ができるか分からないから	703	14.0
他の資格を取得するためなどのワンステップだったから	134	2.7
その他	433	8.6
無回答	71	1.4

## 質問9 「資格」取得により培ったスキルの活用程度(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14312	100.0
大いに活かして「活動」している	3014	21.1
まあ活かして「活動」している	5607	39.2
ほとんど活かして「活動」していない	5588	39.0
無回答	198	1.4

## 質問10 「資格」取得により培ったスキルを活用していない理由(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	5588	100.0
とくにない	128	2.3
勤務先や周囲に「活動」に関するような問題がないから	631	11.3
「活動」がどういふことか、社会的にまだ認知されていないから	396	7.1
「活動」について説明しても、誤解されたり敬遠されたりするから	228	4.1
勤務先での現在の担当職務では「活動」とは関係が薄いから	2432	43.5
「活動」をしても周りや勤務先の評価や処遇は変わらないから	408	7.3
技能や経験が不足して「活動」に自信がないから	1371	24.5
「資格」は取ったが、自分は産業カウンセラー等に向いていないと思うから	165	3.0
「資格」取得は「活動」をするためというより、自分自身の勉強や生きがいのためだったから	971	17.4
「資格」を使ってどういふ場で「活動」ができるか分からないから	990	17.7
「活動」をしたくても現実その機会や場がないから	2785	49.8
「資格」取得は、他の資格を取得するためなどのワンステップだったから	118	2.1
その他	501	9.0
無回答	48	0.9

## 質問11 「活動」を行なっている場所(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	8621	100.0
自営の事務所の相談室で	385	4.5
一般企業内の相談室で	1346	15.6
一般企業内の相談室以外の職場(オフィス、会議室などで)	1937	22.5
外部EAP機関で	293	3.4
官公庁・自治体の相談室で(ハローワークは除く)	720	8.4
官公庁・自治体の相談室以外の職場(オフィス、会議室などで)(ハローワークは除く)	382	4.4
ハローワーク(ジョブカフェ、ヤングワークプラザなどを含む)で	1371	15.9
公益法人(当協会を除く)・組合(共済・健保など)の相談室で	294	3.4
公益法人(当協会を除く)・組合(共済・健保など)の相談室以外の職場(オフィス、会議室などで)	236	2.7
(社)日本産業カウンセラー協会の相談室や講座、事務所で	538	6.2
病院・診療所・クリニックで	606	7.0
児童、老人、障害者等の福祉施設で	479	5.6
学校等の教育機関で	1051	12.2
地域(自治会、公民館、婦人会館などの相談室)で	439	5.1
自宅、相手宅、喫茶店などプライベートな場所で	1397	16.2
その他	1037	12.0
無回答	65	0.8



質問12 「活動」の形態(2MA)

	回答数	割合(%)
総数	14312	100.0
自営で(自分で相談室等事務所を構えて)	530	3.7
常勤雇用の主たる業務で(企業、EAP、自治体、病院、学校、団体(協会)などの組織で)	3548	24.8
常勤雇用の主たる業務以外で(企業、EAP、自治体、病院、学校、団体(協会)などの組織で)	1508	10.5
フリーランサーで(契約や派遣、パート雇用されて)(企業、EAP、自治体、病院、学校、団体(協会)などの組織で)	2022	14.1
ボランティアで(交通費等の実費支給程度で、企業、自治体、学校、病院、団体(協会)などの組織で)	1524	10.6
プライベートで(同僚・部下、友人、知人の範囲で)	2880	20.1
その他	769	5.4
無回答	3974	27.8

質問13 「活動」の内容(5MA)

	回答数	割合(%)
総数	14312	100.0
メンタルヘルス・ケアの個人面接(グループ面接、電話相談も含む)	4115	28.8
メンタルヘルス・ケアの教育研修講師	1718	12.0
メンタルヘルス・ケアのコンサルテーション	819	5.7
メンタルヘルス・ケアの企画や制度設計やその運営	767	5.4
職場復帰支援	1770	12.4
キャリアカウンセリングの個人面接(グループ面接、電話相談も含む)	2699	18.9
キャリアカウンセリングの教育研修講師	908	6.3
キャリアカウンセリングのコンサルテーション	685	4.8
キャリアカウンセリングの企画や制度設計やその運営	357	2.5
人間関係開発の職場での実践	754	5.3
人間関係開発の教育研修講師	950	6.6
人間関係開発のコンサルテーション	317	2.2
人間関係開発の企画や制度設計やその運営	302	2.1
スーパーバイザー業務	270	1.9
アセスメント業務	561	3.9
職場の部下の指導や管理	2092	14.6
職場の同僚などとの対人関係向上	2686	18.8
職場外の友人や家族との対人関係向上	2524	17.6
自分自身の生き方の見直し、自己啓発	3957	27.6
その他	1213	8.5
無回答	3983	27.8

質問14 「活動」で得る報酬(2008年の年間総額(税込み))(SA)

	回答数	割合(%)
総数	5822	100.0
50万円未満	1032	17.7
50万円以上、100万円未満	347	6.0
100万円以上、200万円未満	624	10.7
200万円以上、300万円未満	779	13.4
300万円以上、400万円未満	679	11.7
400万円以上、500万円未満	468	8.0
500万円以上、600万円未満	400	6.9
600万円以上、700万円未満	239	4.1
700万円以上、800万円未満	206	3.5
800万円以上、900万円未満	109	1.9
900万円以上、1000万円未満	73	1.3
1000万円以上	168	2.9
無回答	706	12.1

質問15 「活動」の1ヶ月平均日数(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14312	100.0
1日以上、2日未満	1674	11.7
2日以上、5日未満	2184	15.3
5日以上、10日未満	1371	9.6
10日以上、20日未満	1890	13.2
20日以上	2028	14.2
その他	806	5.6
無回答	4375	30.6

質問16 産業カウンセラー等として身につけたい特性(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
とくにない	524	3.5
カウンセリング関連技能(スキル)(傾聴、面接、各種療法、心理アセスメント、ファシリテーション、コンサルテーションなどの専門スキルを身につけていて使えること)	9965	67.4
カウンセリング専門知識(カウンセリング理論・臨床心理学・各種療法・心理検査・産業組織心理学・精神保健関係法規の知識などをもって使えること)	6687	45.3
カウンセリング関連知識(労働関係法規、産業経済・社会文化の動向、自分の関係する組織の情報などをもって使えること)	3369	22.8
ものの見方・考え方(人間尊重の人間観・労働観・倫理観・人権意識・民主・平等意識、責任意識、科学的論理的思考を身につけていること)	4103	27.8

自分についての認識(自分を客観視でき、コントロール(安定)性、透明性、受容・共感・配慮性、寛容・柔軟性、謙虚さ、ポジティブさ、感受性を保っていること)	4861	32.9
経験(個人面接、スーパーバイジング、ベシック・エンカウンター・グループ、コンサルテーション、組織内での労働などの経験を積んでいること)	5169	35.0
マネジメント力(業務やチームのマネジメント力、交渉・発表・文章作成などのコミュニケーション力、調査・研究、講義・研修などのスキルを身につけていて使えること)	4275	28.9
その他	114	0.8
無回答	57	0.4

質問17 現在のスキルを維持・向上するための活動(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
とくにやっていない	2306	15.6
協会が企画する講義、実習、演習(少人数でのケース研究など)の受講	4736	32.1
他の団体が企画する講義、実習、演習(少人数でのケース研究など)の受講	3772	25.5
協会が企画する講義、実習、演習の講師または指導者の経験	555	3.8
他の団体が企画する講義、実習、演習の講師または指導者の経験	721	4.9
個人的にスーパービジョンを行なう、または受ける	728	4.9
カウンセラー、コンサルタント、ファシリテーターの経験	2102	14.2
個人学習(自己啓発)	3775	25.5
大学、大学院(放送大学、通信制大学などを含む)で学習	1039	7.0
仲間と自主的に開く勉強会に参加	1995	13.5
協会や支部の研究大会に参加	615	4.2
関連学会の大会やワークショップ(研修会)に参加	1037	7.0
勤務先の日常業務のなかでの意識的な活動の経験	4381	29.6
地域でのボランティア活動の経験	1060	7.2
日常のプライベートな場での意識的な活動の経験	2150	14.6
その他	234	1.6
無回答	120	0.8

質問18 「活動」に対する協会の役割(支援)についての意見(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
資格付与以後の活動の支援も協会に期待している	10877	73.6
資格取得以後は自己責任で活動すべきで協会の支援は期待していない	779	5.3
どちらとも言えない(よく分からない)	3275	22.2
無回答	92	0.6

質問19 「活動」に対して協会が行なうべき「支援」の内容(3MA)

	回答数	割合(%)
総数	10877	100.0
どんな実践活動ができるのか、その目指すあり方を紹介してほしい	3376	31.0
実践活動ができるようになるノウハウを教えてほしい	3304	30.4
具体的な就職先(ボランティアを含む)を紹介してほしい	4285	39.4
実践活動のインターン(実習)の場を設けてほしい	3445	31.7
スキルアップする勉強の場(研修、講座など)の質や量を充実してほしい	4241	39.0
スキルアップする勉強の場(研修、講座など)の受講料を見直してほしい	3837	35.3
スキルアップする勉強の場(研修、講座など)の地域差をなくしてほしい	1914	17.6
スキルアップする勉強の場(研修、講座など)の履修評価(成績など)のフィードバックしてほしい	517	4.8
研究や調査の指導をしてほしい	404	3.7
スーパーバイジングの場、人を紹介してほしい	1711	15.7
その他	298	2.7
無回答	38	0.3

質問20 性別(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
女	9179	62.1
男	5575	37.7
無回答	23	0.2

質問21 年齢(NA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
19歳以下	-	-
20-29歳	509	3.4
30-39歳	3045	20.6
40-49歳	4685	31.7
50-59歳	4012	27.2
60-69歳	2045	13.8
70-79歳	336	2.3
80歳以上	38	0.3
無回答	106	0.7
平均年齢	48.09	-
標準偏差	10.96	-



質問22 居住地(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
北海道	306	2.1
青森	47	0.3
岩手	95	0.6
宮城	310	2.1
秋田	67	0.5
山形	90	0.6
福島	106	0.7
栃木	188	1.3
群馬	246	1.7
茨城	236	1.6
埼玉	810	5.5
千葉	928	6.3
東京	2677	18.1
神奈川	1733	11.7
山梨	107	0.7
新潟	268	1.8
長野	288	1.9
富山	92	0.6
石川	155	1.0
福井	68	0.5
岐阜	136	0.9
静岡	392	2.7
愛知	830	5.6
三重	203	1.4
滋賀	89	0.6
京都	210	1.4
大阪	709	4.8
兵庫	464	3.1
奈良	101	0.7
和歌山	29	0.2
岡山	190	1.3
広島	357	2.4
山口	94	0.6
鳥取	38	0.3
島根	50	0.3
徳島	97	0.7
香川	167	1.1
愛媛	250	1.7
高知	111	0.8
福岡	542	3.7
佐賀	63	0.4
長崎	138	0.9
大分	103	0.7
熊本	118	0.8
宮崎	177	1.2
鹿児島	122	0.8
沖縄	146	1.0
無回答	33	0.2

質問23 就労形態(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
正社員(常勤雇用者)	7334	49.6
契約社員	1815	12.3
派遣社員	255	1.7
パート・アルバイト	945	6.4
非常勤(顧問など)	908	6.1
経営者(自営業主)	1011	6.8
休職中	81	0.5
無職(求職中)	347	2.3
定年退職者	530	3.6
主婦	733	5.0
学生	127	0.9
その他	584	4.0
無回答	158	1.1

質問24 (1)勤務先の業種(SA)

	回答数	割合(%)
総数	12339	100.0
農業・水産・鉱業	27	0.2
建設業	157	1.3
製造業	1593	12.9
電気・ガス・水道業	120	1.0
情報通信業	687	5.6
運輸業	152	1.2
卸売・小売業	467	3.8
金融・保険業	599	4.9
不動産業	71	0.6
飲食・宿泊業	57	0.5

医療業	1101	8.9
福祉業	625	5.1
教育・学習支援業	1155	9.4
サービス業	1187	9.6
公務	2544	20.6
自営の相談室や外部EAP機関	205	1.7
その他	796	6.5
無回答	836	6.8

(2) 勤務先の従業員数(SA)

	回答数	割合(%)
総数	12339	100.0
10人未満	942	7.6
10人以上、50人未満	1768	14.3
50人以上、300人未満	2867	23.2
300人以上、1000人未満	1995	16.2
1000人以上、3000人未満	1332	10.8
3000人以上、10000人未満	1150	9.3
10000人以上	1392	11.3
無回答	900	7.3

(3) 勤務先の産業カウンセリング等の活動への関心度(SA)

	回答数	割合(%)
総数	12339	100.0
組織全体として関心はかなり高い	1886	15.3
組織全体として関心はほどほどに高い	2692	21.8
組織全体として関心はあまり高くない	2506	20.3
組織全体として関心は低い	3440	27.9
よく分からない	917	7.4
無回答	899	7.3

(4) 勤務先での職種(SA)

	回答数	割合(%)
総数	12339	100.0
農林漁業職	15	0.1
生産労務職	67	0.5
運輸通信職	35	0.3
営業販売職	487	3.9
一般事務職	2081	16.9
人事労務職	872	7.1
サービス職	155	1.3
技術職(SEなど)	355	2.9
研究職	74	0.6
保安職(自衛官・警察官・警備員)	61	0.5
経営職(自営業主)	162	1.3
管理職	1327	10.8
カウンセラー(キャリア・コンサルタントを含む)	1919	15.6
心理職(家裁調査官、心理判定員など)	154	1.2
経営コンサルタント(公認会計士、税理士、中小企業診断士など)	111	0.9
社会保険労務士、司法書士、行政書士	149	1.2
弁護士	5	-
学校教員	339	2.7
教育研修職(塾講師、インストラクター)	327	2.7
医師	23	0.2
保健・看護職	1320	10.7
その他医療職(薬剤師、医療関係技師など)	161	1.3
介護職(介護福祉士、介護ヘルパーなど)	110	0.9
福祉職(社会福祉士、精神保健福祉士など)	335	2.7
その他	939	7.6
無回答	839	6.8

質問25 協会発行の「資格登録証」の有無(SA)

	回答数	割合(%)
総数	14776	100.0
持っている	11027	74.6
まだ資格を取っていないので持っていない	434	2.9
資格は取っているが持っていない	3304	22.4
無回答	69	0.5

質問26 資格登録していない理由(2MA)

	回答数	割合(%)
総数	3304	100.0
現在、産業カウンセリングにかかわる「活動」をしていないから	1324	40.1
協会のあり方や事業に疑問を感じるから	165	5.0
資格登録料が高いから	1202	36.4
資格登録しても得られるメリットが少ないと思うから	1077	32.6
カウンセリング自体に関心がなくなったから	30	0.9
資格登録の仕方が分からないから	569	17.2
資格取得だけが主目的だったから	213	6.4
その他	471	14.3
無回答	8	0.2